特268-22
1203501125739

22

編會及普識知學科 財團法人

帖眞寫物動

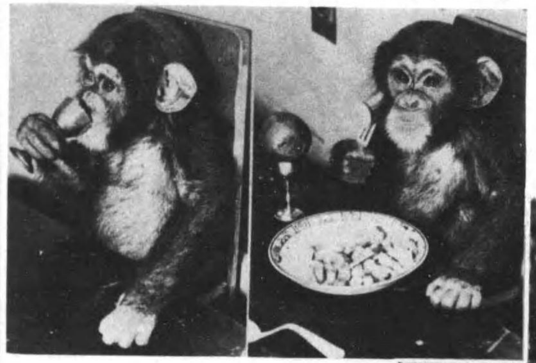
始

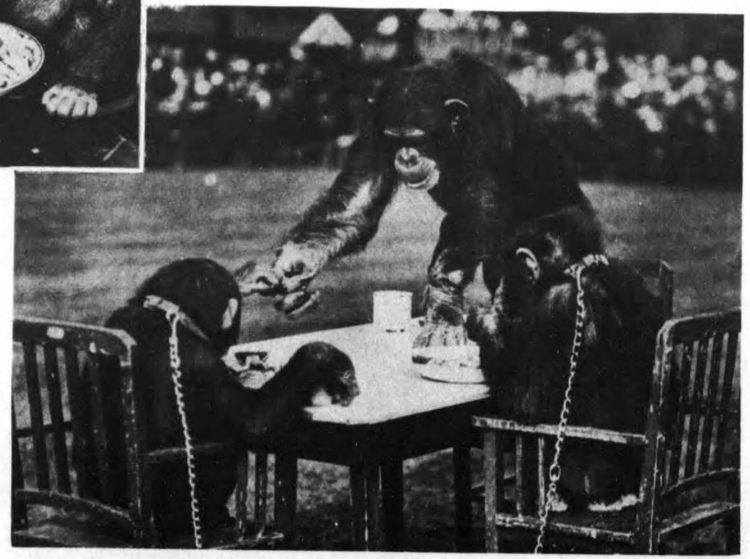
特268
22

動物寫眞帖

昭和九・五・一一 帝圖

財團法人
普識知學科編會

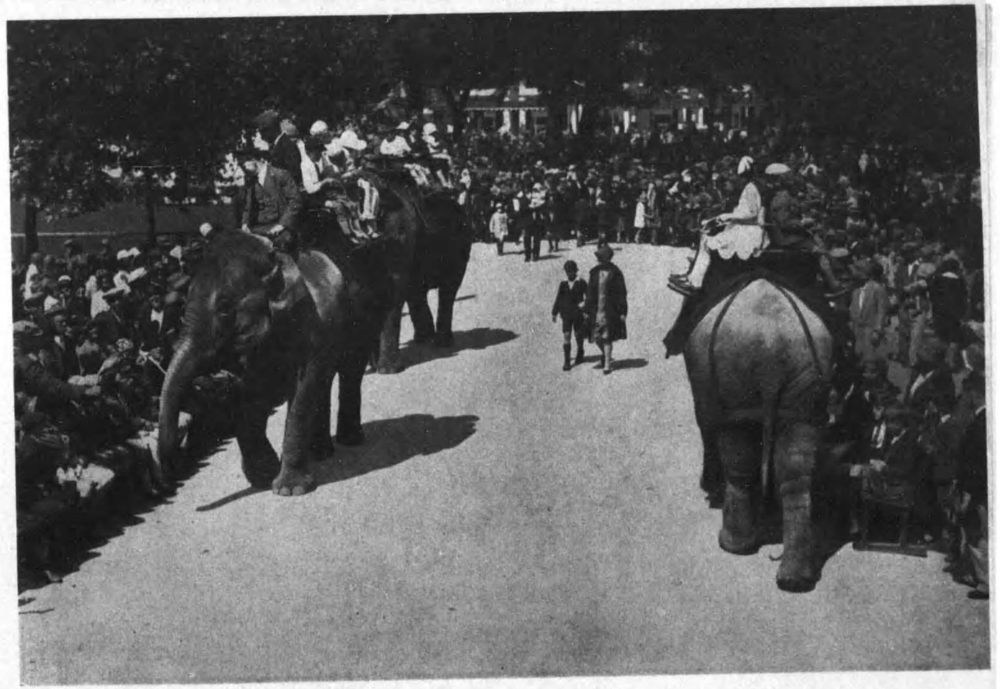




飼はれてゐる

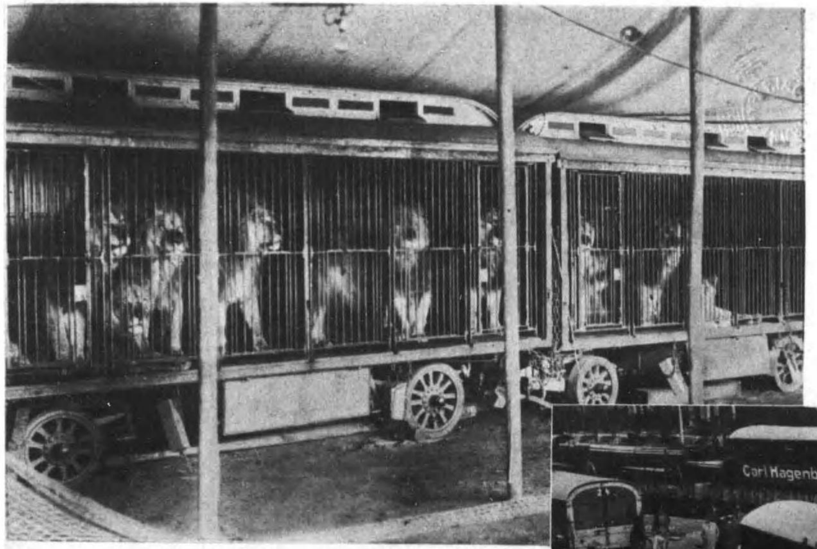
チンパンヂー

食卓についてゐるチンパンヂー。上圖は生後九ヶ月の幼仔であるが、獨りで行儀よく食事をしてゐる。御馳走はバナヽ・オレンヂ・牛乳・鶏卵など。



動物園の象

印度象はよく人に馴れるので、歐米の動物園では見物に來た子供達を象の脊にのせて園内を巡回させる。頸の處に乘つてゐるのが象使で象はその指圖通りになる。見物人も象に親んでゐるから、パンやビスケット等を掌にのせて差出すと、象は鼻をのばして貰つて行く。象が見物人に危害を加へたやうなことは一度もないさうだ。



サーカスの動物

ドイツのハーゲンベツクは世界一の動物園の經營者である。彼の手にかゝるとどんな野生の動物でもハンブルグの氣候と適當な食餌とに飼ひ馴らされ、動物園の動物になつてしまう。中でも性質の從順なものは藝を仕込んで曲馬團の動物に仕立てる。

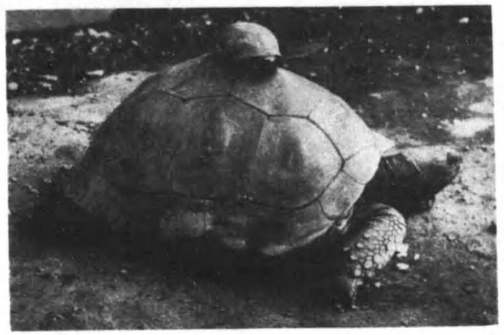
上圖はサーカスのライオンを入れた檻車。

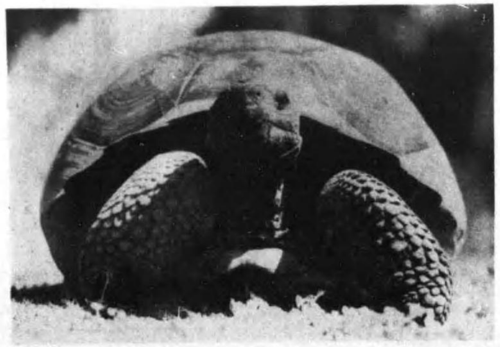
下圖はサーカスのアシカを容れた水槽車を象が運搬してゐるところ

左上　上野動物園に飼はれてゐるもの

左下　前向き

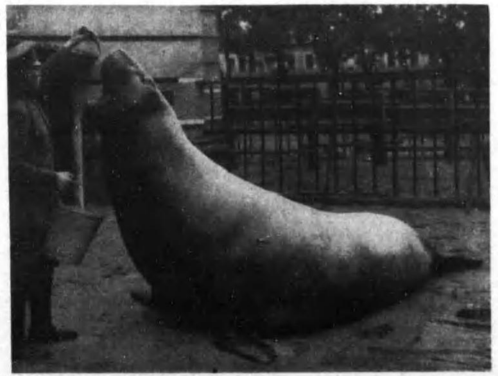
右　ニューヨークのブロンクス動物園に飼はれてゐた三百齢のザウガメがバナヽを貰ふところ。





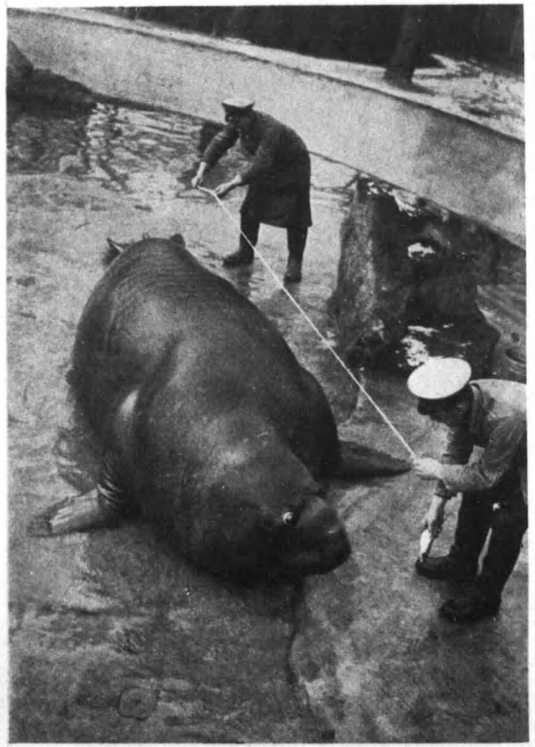
ザウガメ　象龜

ガラパゴス群島に產する大きな陸棲の龜



海象

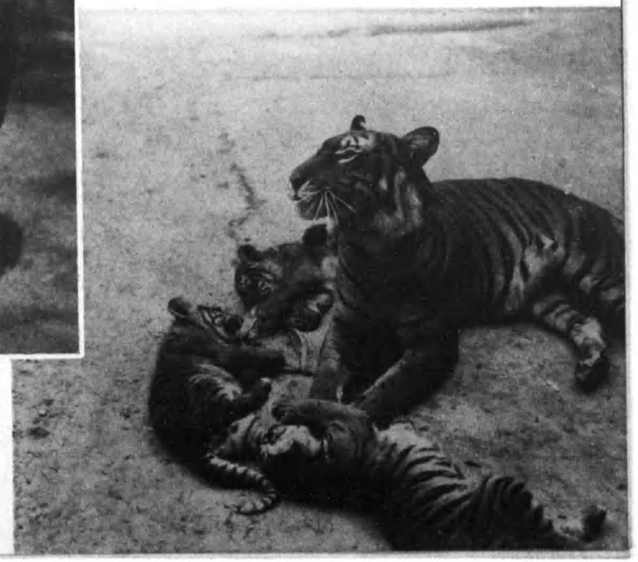
左　ベルリン動物園では年々飼育動物の體格檢査をする。この海象の身長は四・八米で二年間に〇・五米成長した



右上　游いでゐる海象

左下　鍊を貰つてゐる海象

虎の親仔
仔は生後三ヶ月



印度象の仔と
ライオンの仔

獣の幼稚園

上野の動物園ではライオン・狐・猪・山羊などの仔を一合に收容して幼稚園を開きました。初めは仲よく無邪氣に遊んでゐましたが、ライオンの仔は成長するにつれ段々暴らくなり、弱蟲な山羊は第一に退園しました。其の後或夜のこと猪の仔はライオンに噛付かれて大怪我をしました。狐も虐められましたが身輕に逃げ廻はるので難を免れたのです。僅か三ヶ月でこの幼稚園も閉鎖になつたことは殘念です。

猿蟹合戰

これはインドの猿蟹合戰です、小猿が大きな蟹に手をはさまれて泣いてゐます

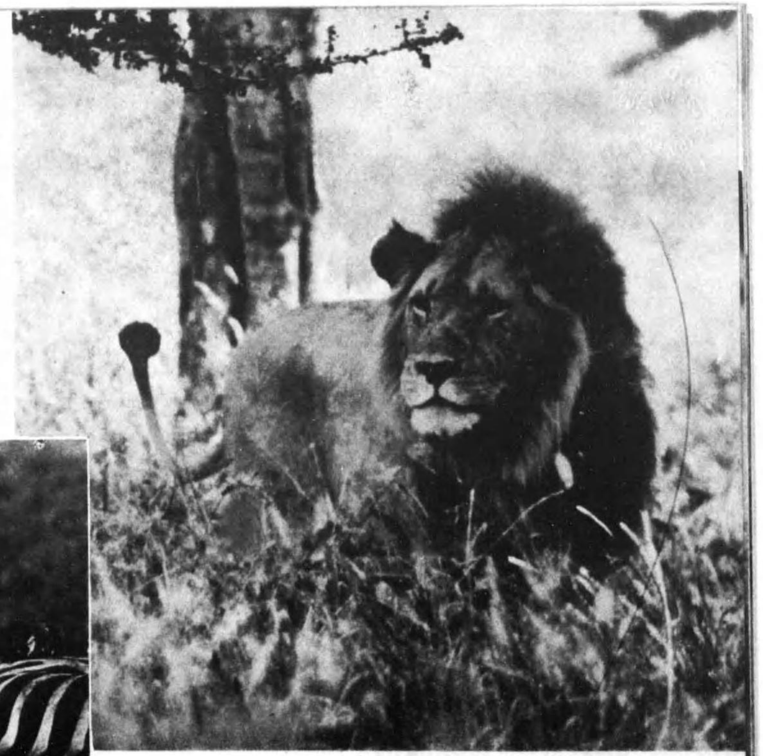
アンテロープ　羚羊

南アフリカの森林や叢原には多くの稀らしい羚羊が棲んでゐるがこゝに掲げるものは何れも強大な角を持つ大きな種類のものである。

ライオン 獅子

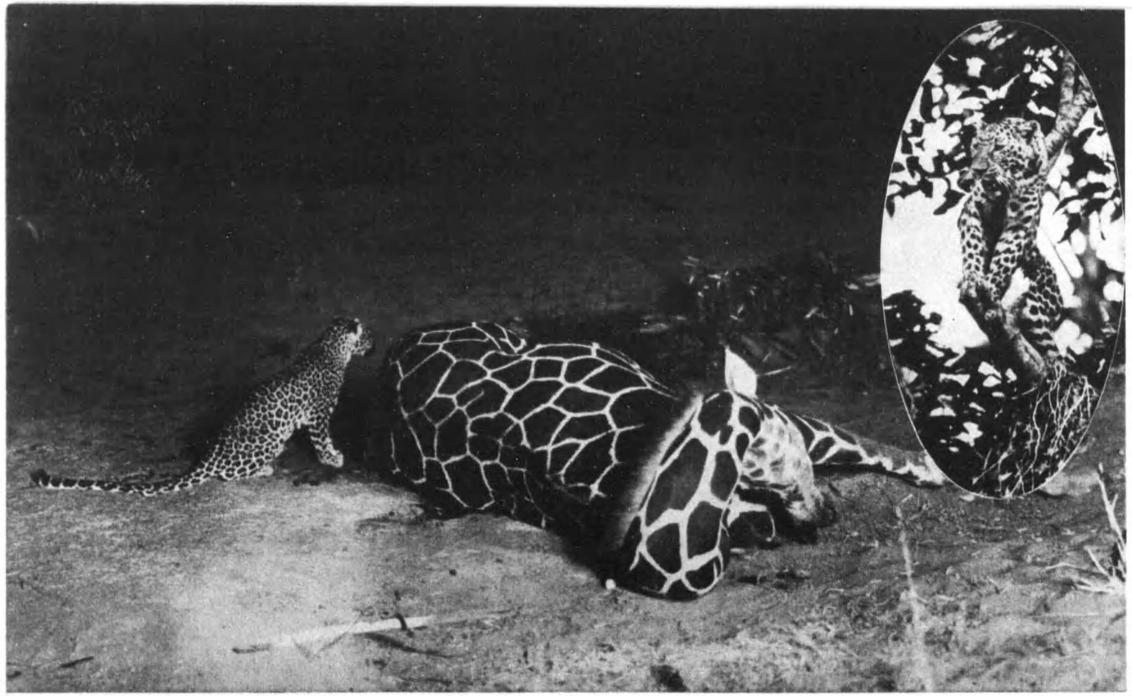
獅子はアフリカに產する猛獸で、多く夜間に活動する。全長は三米近くで、その約三分の一が尾の長さである。體色は雌雄とも黃色を帶びた褐色で、雄には長いタテガミがある。このタテガミは約三歲で現はれ、六歲位で立派になる。獅子の食餌はカモシカ・シマウマ・水牛・ジラフ等であるが、又土人を襲つて大害を加へることが少くない。

寫眞はアフリカで寫したもので、右は雄、左は仔。次頁は獅子の群。叢の中にゐると見分けにくい。



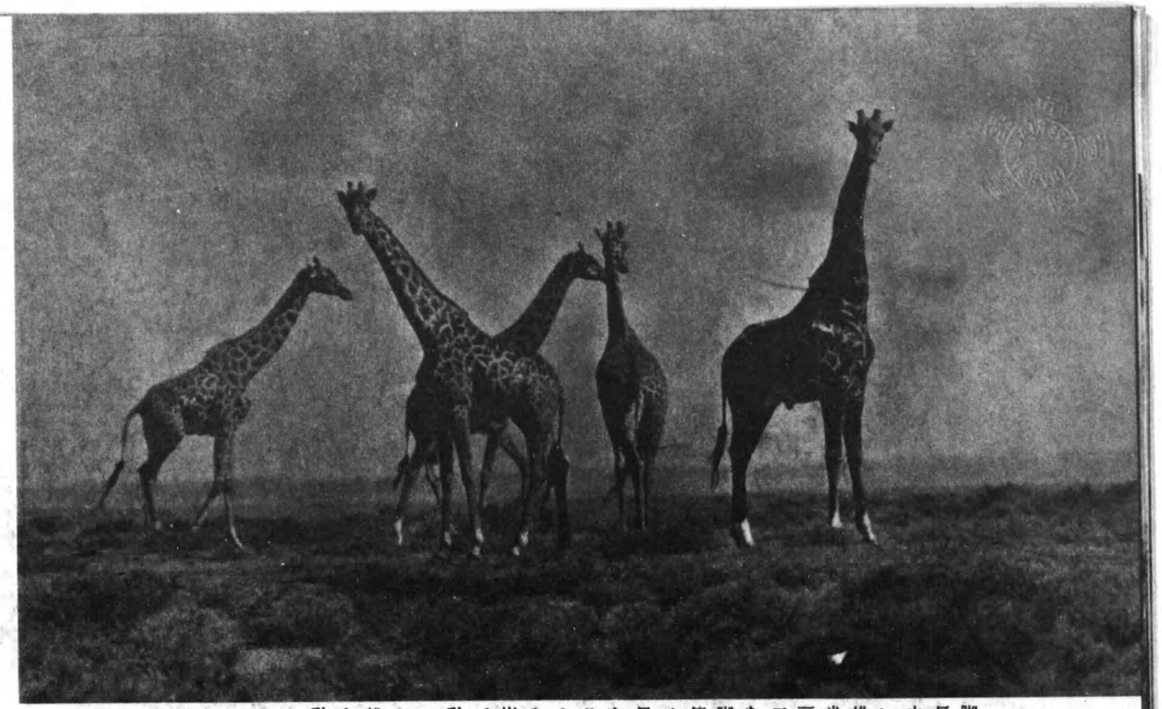
トラ　虎

虎は朝鮮・滿洲・支那・シベリア。インド・ビルマ・シヤム・マレイ半島・スマトラ・ジヤバ等に棲んでゐる猛獸で、體はライオンより少し小形である。毛皮は黄色に幾分褐色を帶び、黑い縞があるが、腹部は白色である。主に鹿類・野猪等を捕へて食ふが、人畜にも害を加へることが少くない。虎もやはり夜活動する動物で、右圖は印度の密林で夜間撮影したもの、左圖は獲物を覗つてゐる姿勢である。



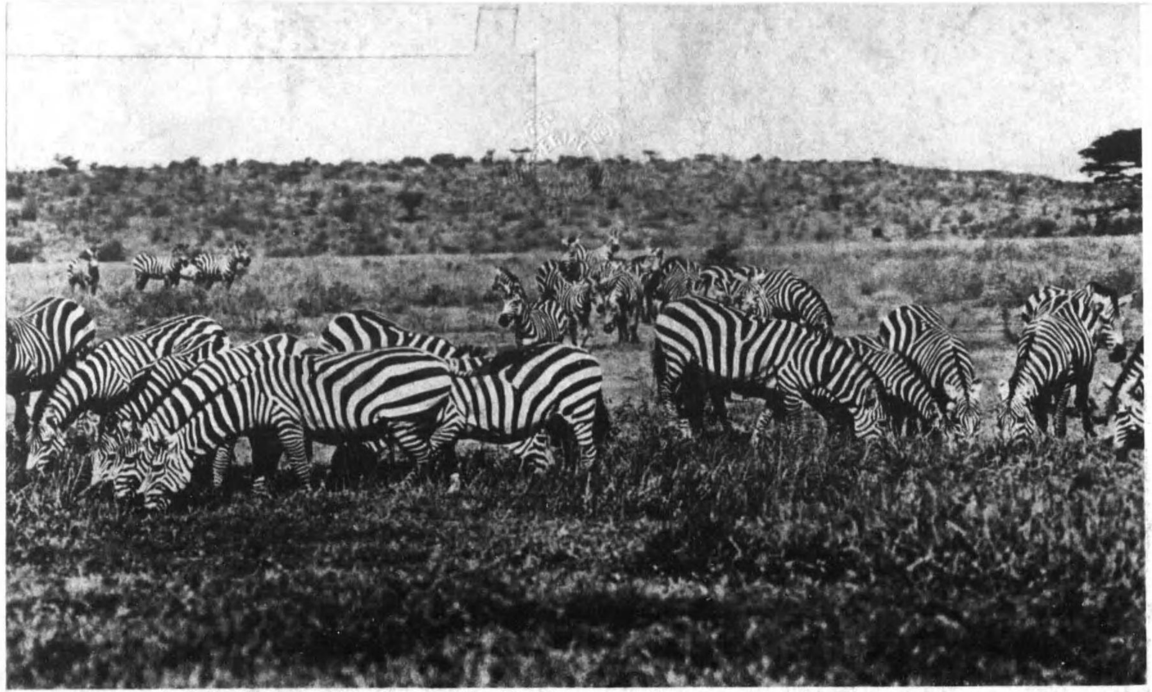
ヘウ　豹

豹も虎とほゞ同じところに產する食肉類で虎よりも小さい。毛皮は褐色で、これに黑い斑紋が澤山ある。斑紋の內部は色が薄い。主として樹林中に棲み、木に登ることが上手で獲物を見ると木の上からでも飛びついてくる。僅かなことでも怒つて直に攻勢をとるから、虎よりも危險な動物である。食餌は羊・山羊・牛・驢馬・犬を好み、日中は叢林中にひそみ、日が暮れてから活動を始める。



ジラフ

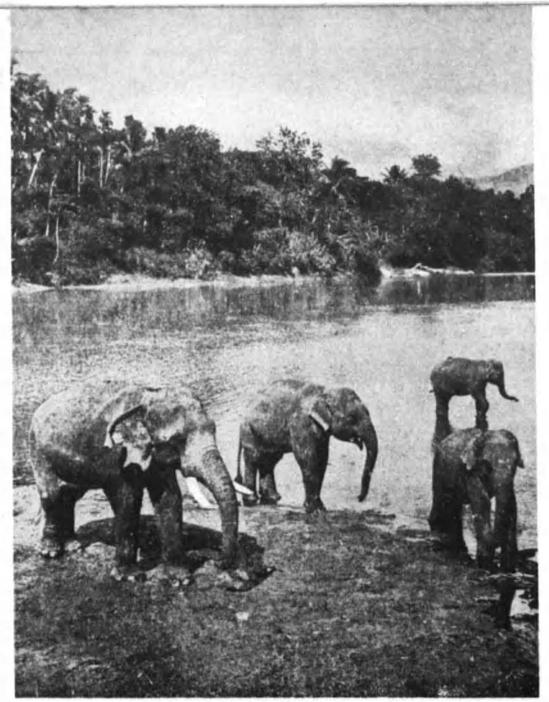
脚と頸とが長く動物の中で一番せいが高い。雄は五・七米位ある。頭の上には二本の小さな角があり、脚の蹄は二個ある。體は茶褐色で黒い不規則な斑點がある。アフリカに棲んでゐて、草や樹の葉を食べる。この動物をキリンと云ふ人があるが、麒麟は支那人の想像の動物で、繪や書物にある麒麟はジラフとはまるで異つた形體のものである。

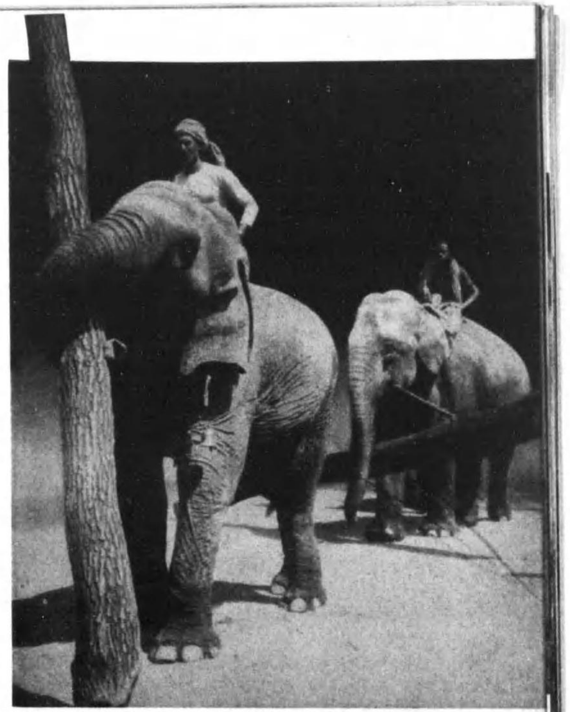


シマウマ

縞馬

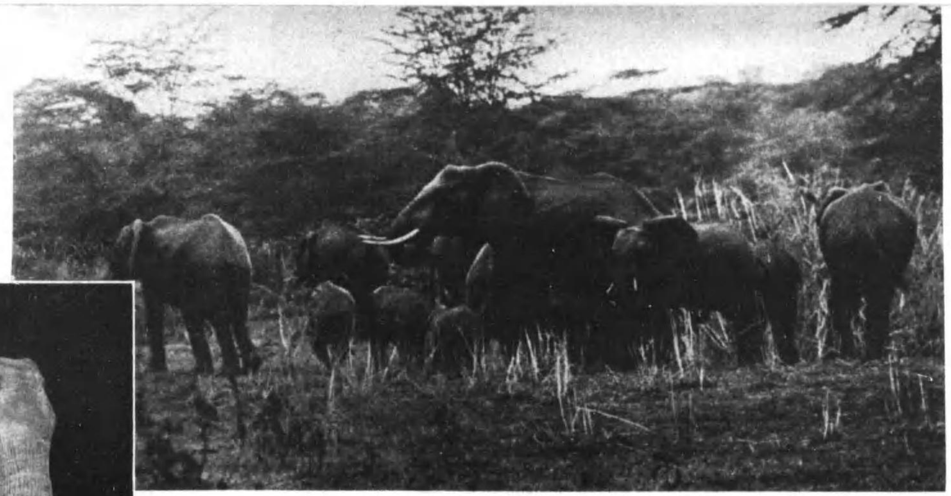
シマウマもアフリカ特産の有蹄類で、外形はウサギウマに似てゐるが、體は全部に黒い縞がある。茅などの茂つた叢の中にゐると見分けにくい保護色である。常に原野に群集してゐて、眼も耳も鼻も感覺が鋭敏で、敵が近づくと非常な速さで馳ける。人に馴れにくいから馬のやうに使ふことができない。





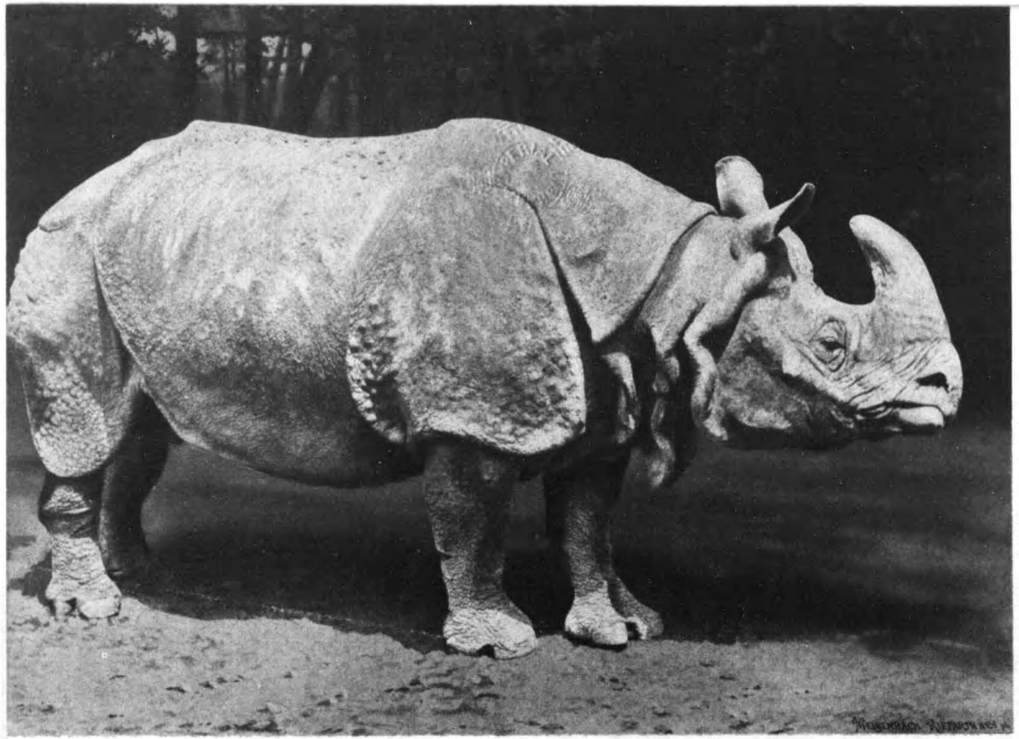
インドザウ

印度象は印度・シヤム・ビルマ・交趾支那・スマトラ等の森林地方に棲んでゐる。アフリカ象より小さく、肩の高さ二・八米位、耳も小さく、象牙も短い。人に馴れやすく、農事や荷物を運ぶのに使はれる。水浴が好きで河を泳ぐこともできる。暑い日には鼻で水を吸上げて體に吹きかける野象は椰子園やゴム園に出てくると一夜の中に大害をするので恐れられてゐる



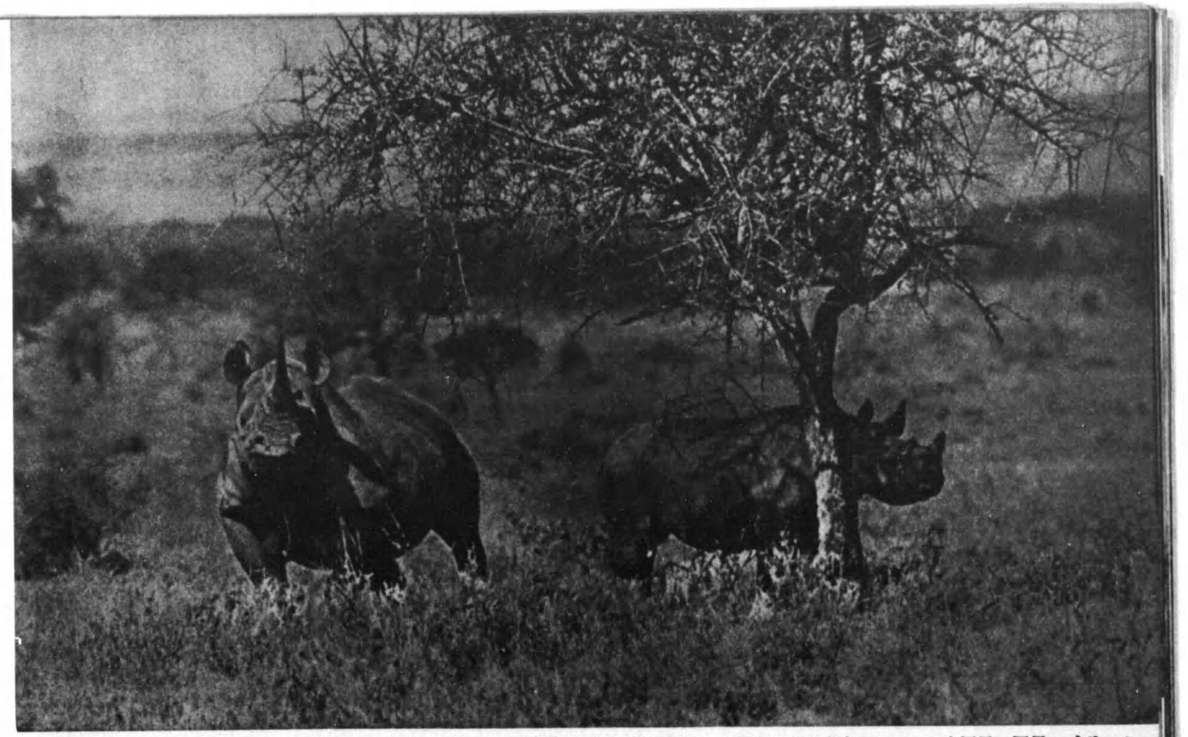
アフリカ象

陸上生活の動物の中では一番大きなもので、肩の高さは三米餘もある。耳は非常に大きく、後へ垂れると肩をおほふ位である。象牙といふ大きな犬齒が長く突き出てゐる。象は長鼻類と云はれ鼻が長く、その先端には二本の指のやうな突起があり（印度象ではこれが一本である）、その觸覺が鋭敏で、地上にある小さいものでも取上げることができる。アフリカの森林中に棲み、草や木の葉・果實・木の根・皮などを食してゐる。印度象と異つて人に馴れ難いので使ふことができない

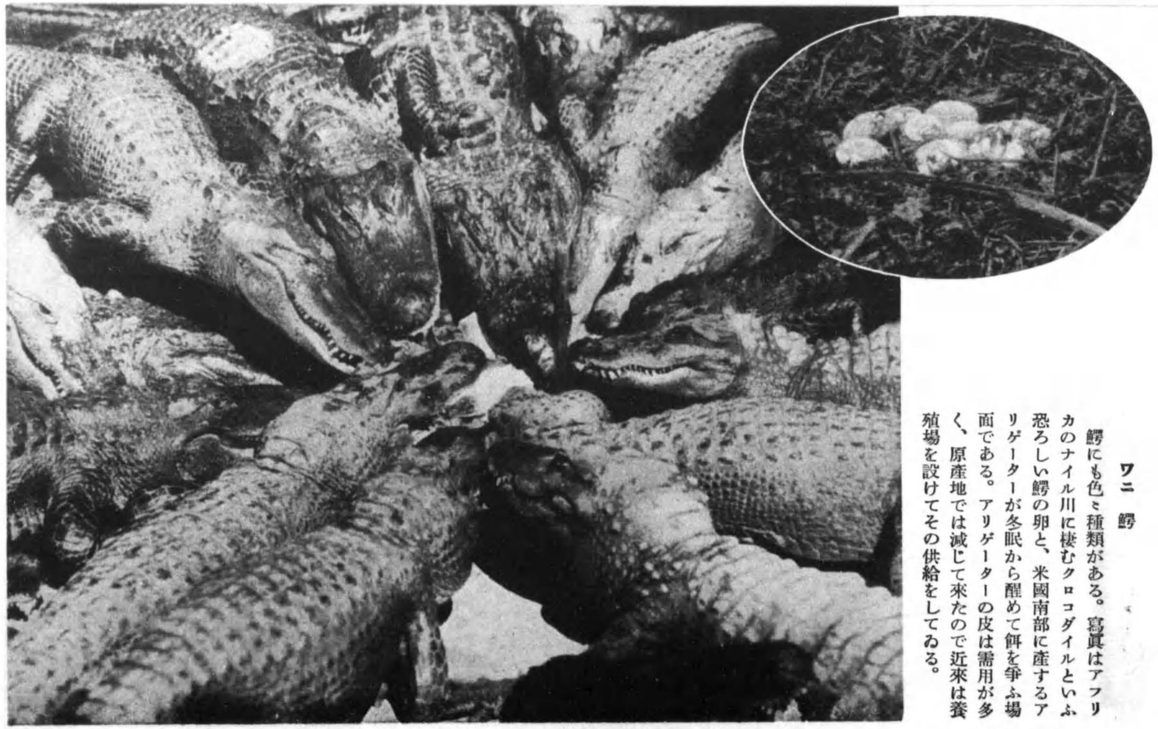


インドサイ　印度犀

印度地方の濕地にすみ、皮膚は厚く硬く、頸・肩・腰・腿等に深いしわがあり、脇腹にはいぼが澤山ある。角は一本であるが、下顎の犬齒がよく發達して牙となり、外敵に對する武器になつてゐる。

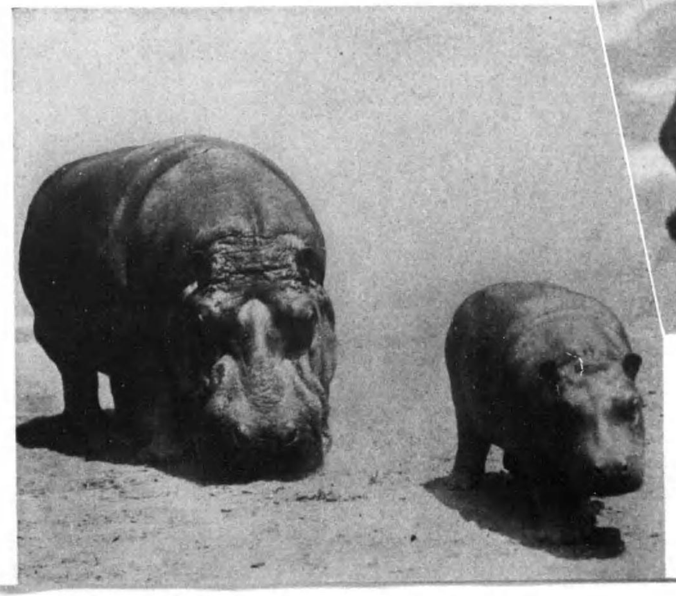


クロサイ　黑犀　黑犀もアフリカに產する大き**な獸**で、雜木や木繁の草や茂してゐる水邊や濕地を好み、植物質を食べてゐる。皮膚は黑褐色で厚く硬い。角は二本あり、前方にある長い方は極位に及ぶものがある。角の犀は烏犀角と稱し、下熱劑として用ひられてゐる。



ワニ　鰐

鰐にも色〻種類がある。寫眞はアフリカのナイル川に棲むクロコダイルといふ恐ろしい鰐の卵と、米國南部に產するアリゲーターが冬眠から醒めて餌を爭ふ場面である。アリゲーターの皮は需用が多く、原產地では減じて來たので近來は養殖場を設けてその供給をしてゐる。



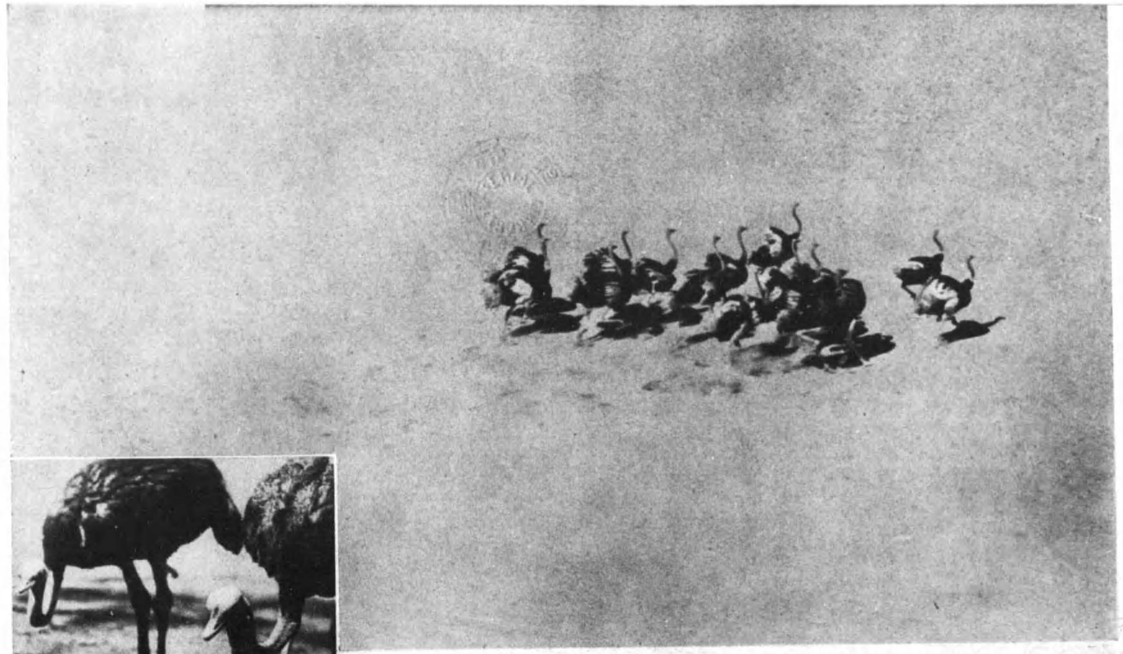
カバ　河馬

アフリカに產し、好んで水中にゐる。體は大きく圓くふくれ、長さ二米半から三米近くあり、肩の高さ一米半位である。耳は小さいが口は大さう大きい。寫眞で見るやうに犬齒がよく發達してゐる。河馬は水中にゐる時には眼と鼻の先とを水面に出すくらゐで、遠方からは見分けにくい。食物は植物質である。

アンテロープ　羚羊

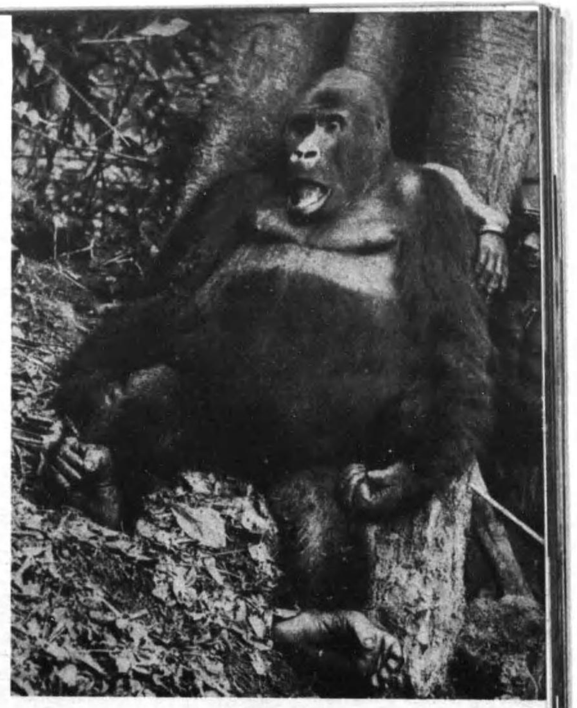
アンテロープは我國の高山にゐるカモシカと同類であるが鹿に似てゐて多くの種類がある。角に著しい特徴があつて細長く眞直のもの、太く螺曲したもの、短くて後方へ曲つたものなど樣々ある。體の斑も亦種々相違してゐる。

この寫眞はアフリカの高原にゐる普通の種類で、體肢輕快で、猛獸に迫はれたりすると叢林の中を跳躍して逃げ、非常に速い。



ダチウ　駝鳥

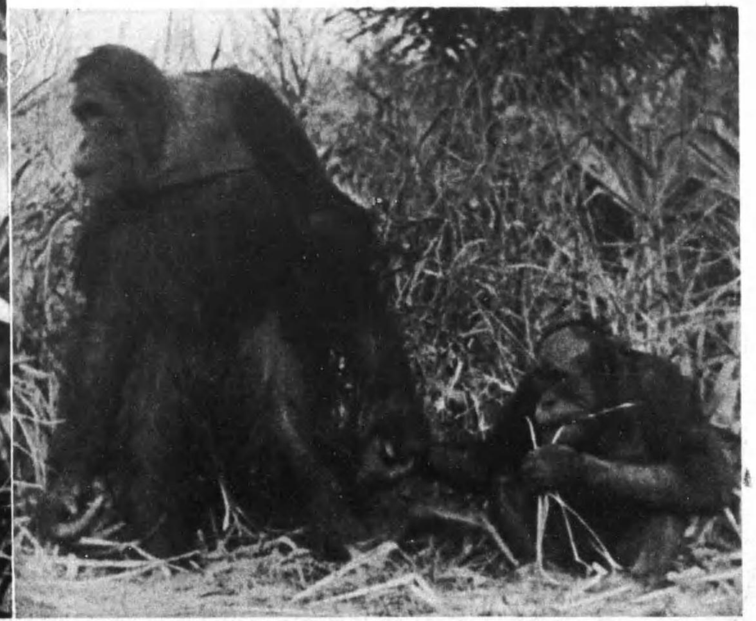
ダチウは頭頂までの高さ二・七米に達し、鳥類中で最大のものである。走禽類で脚はよく發達してゐて丈夫な二趾を有してゐる。馳けることが達者である。北部アフリカ・アラビア地方の砂漠・荒蕪地に普通五六羽群をなし屢々縞馬の群に混つてゐる。胸の羽毛は黑く、翼と尾の羽毛は大きくて純白で美しく、服飾品として珍重される。



ゴリラ

大猩々

アフリカ熱帯地方の森林中に棲み、類人猿中で一番大きく、腕力も強い。右は雄で身長二米餘、強大な體格をしてゐる。左は東部コンゴーの高山で撮影したもので、ゴリラの仔が竹の子を食べてゐるところである。ロンドン動物園には最近二十年振りでゴリラの仔が二匹來たが活潑で悧巧なので忽ち人氣者になつた。



オランウータン

猩々

オランウータンはマレイ語で「森の人」といふことで支那では猩々と稱し昔から知られてゐる類人猿である。スマトラやボルネオの森林に棲み常に樹上に生活してゐる。身長は大きな雄で一・三五米、前肢が後肢より著しく長く、兩腕を伸ばすと二・四米もある。快活ではないが中々悧巧である。寫眞右は親、左は仔。表紙中央もその表情である。

チンパンジ　黒猩々

アフリカの熱帶地方の森林に群集して棲む。雄は體長一・二米位、毛は黑いのが普通だが、變種が二十種もあるので多少相違もある。

黑猩々と猩々と大猩々とは、猿類の中でも特に高等で、この類は頭腦も發達し、胸が廣く頰囊もシリダコも尾もない。前肢は後肢よりも長く、又眉のところが隆起してゐる。併し生理的にも、心理的にも、それ〴〵の特色があるので、どれが一番人に近いか、一概にきめられない。これまで興業師に飼はれたものでは、黑猩々が一番快活で悧巧だといはれてゐる。黑猩々も猩々も衣物を着せられ靴をはかされても自由に歩く。煙草を吸ふ。ナイフとフォークで食事をする。實にこれが本能でできる仕事かと思ふ程の動作をするものがある。言葉こそ話せないがその擧動は野蕃人の子供のやうに愉快だ。

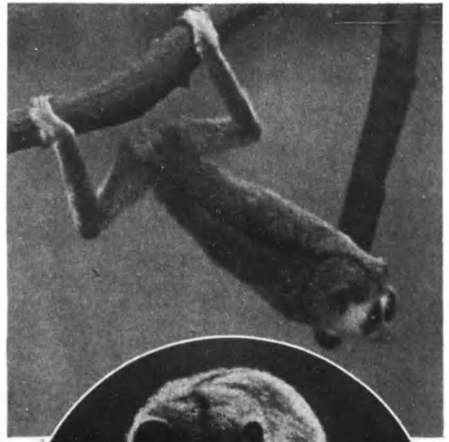
ドイツでは嘗てアフリカ沿岸のテネリフ島に、類人猿研究所を設けたので、ケーラー博士により黑猩々の習性が研究された。

マントルザル

犬のやうな顏をしてゐて、頭からも肩からも長い灰色の毛がマントルをきたやうにたれてゐる。尻には眞紅なシリダコがある。アフリカ地方の岩山や、平野に群をなして棲む。性質は暴い。

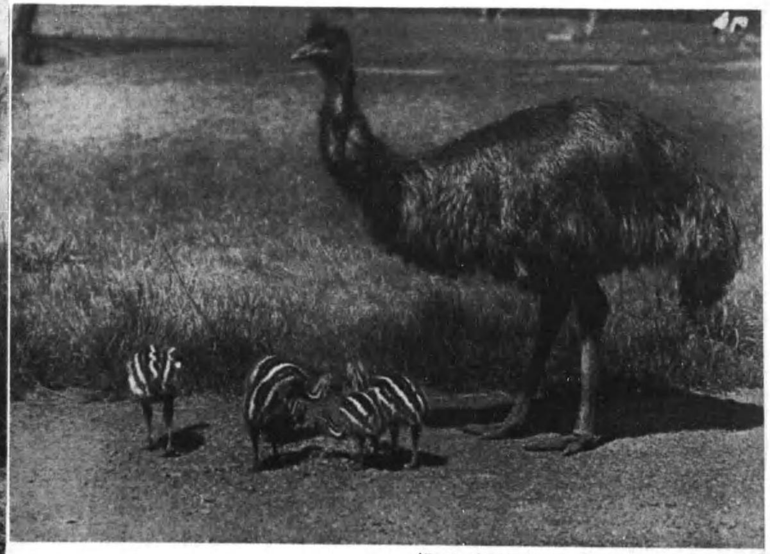
テングザル

鼻が高くて體色に赤い部分が多い。仔は鼻が低いが、成長すると雄の鼻は殊に高く、動かすことができる。スマトラ・ボルネオの森林中を枝から枝へとび歩いてゐる。



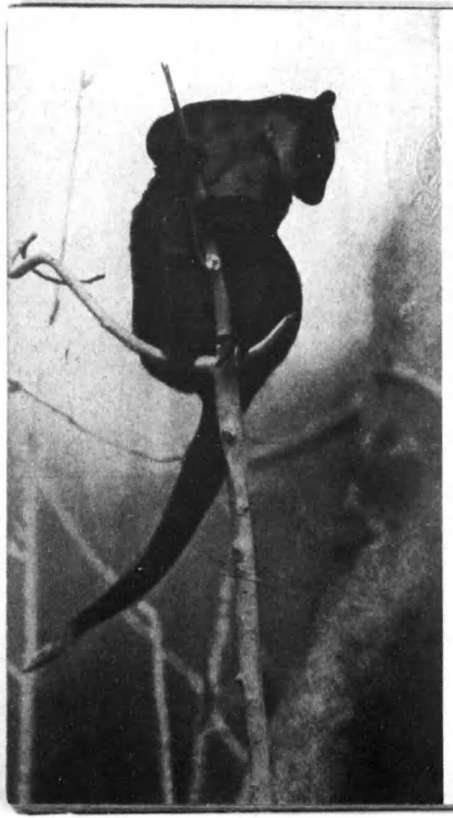
スレンダー　ロリス

印度の西部・セイロンなどの森林にすむ小さな夜獸で、物靜かに樹上を歩く姿は氣味が惡い。ロリスはマレイ語ではクウカンといひ、我國ではコンカンとか血塊とか呼ばれて、よく見世物になつてゐる。この獸の仲間は數種であつて、マダガスカルに一番多いが、アフリカ・印度・ボルネオ・スマトラ・ジャバ等にもゐる。猿より一層劣等なので、擬猴類と呼ばれ區別されてゐる。



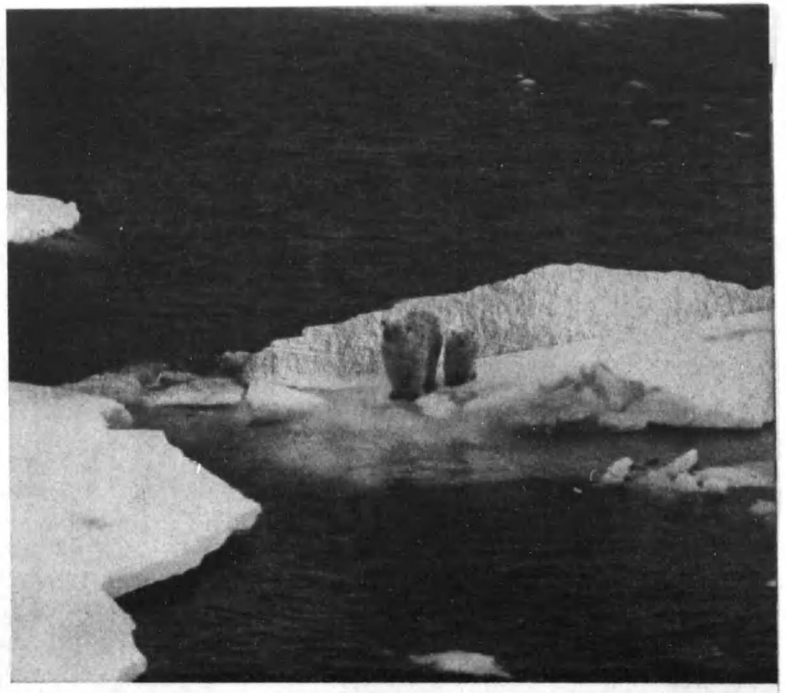
エミウ

エミウは駝鳥に似てゐるが、頸も脚も短かく脚の趾は三本である。體は灰褐色の細長い羽毛におほはれてゐて、小さい翼や尾は認め難い。濠洲西部の砂原や廣い疎林地に棲んでゐる。寫眞は雛をつれた親鳥と巣の中の卵。



カンガルー

カンガルーは有袋類と云つて、產れた仔を腹部にある袋に入れて育てる濠洲產の面白い動物である。大カンガルーは原野にゐて長大な後肢で跳び歩くけれど敵に迫はれたりすると非常に迅い。木登りカンガルーは樹上に生活し、夜活動する。

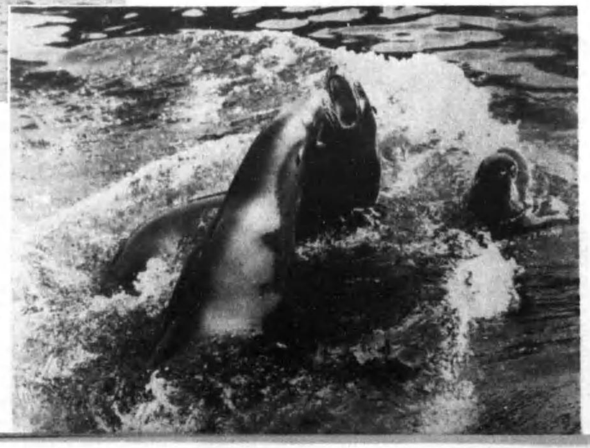


ホクキヨクグマ　北極熊

熊類の中で最も大きい。全身白毛で、氷雪の上にゐると見分けがつかない。寫眞は北氷洋の流氷の上にゐた北極熊の親仔をロシアの探檢隊員が撮影したもので、水を泳ぐのが上手でよく潜ぐり、時々鼻の先を出して呼吸してゐる。岩の上に休んでゐる海獸などを見つけると水へ潜ぐつて岩に近づき、急に前肢を獲物に引きかけて捕へる。

ヒグマ

ヒグマは內地產のツキノワグマよりも遙かに大きく、體長二米に及び、赤褐色の毛が密生してゐる。冬毛は殊に長い。北海道の森林や高山に棲み冬は洞穴に潛んで蟄居してゐるが、夏は木にも登り水にも泳ぎ非常に活動する。六七月の交尾期には人畜を襲ひ、牧場に大害を與へることがある。下圖はヒグマに斃された馬の殘骸で、食べ殘した屍に土砂をかけて隱しておく習性がある。

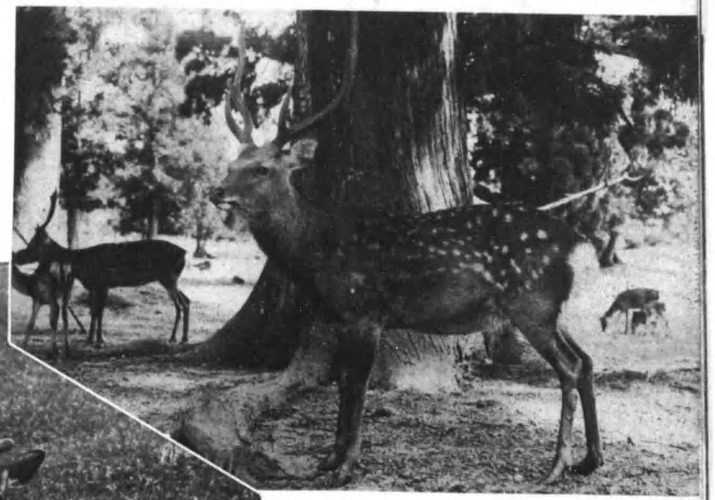


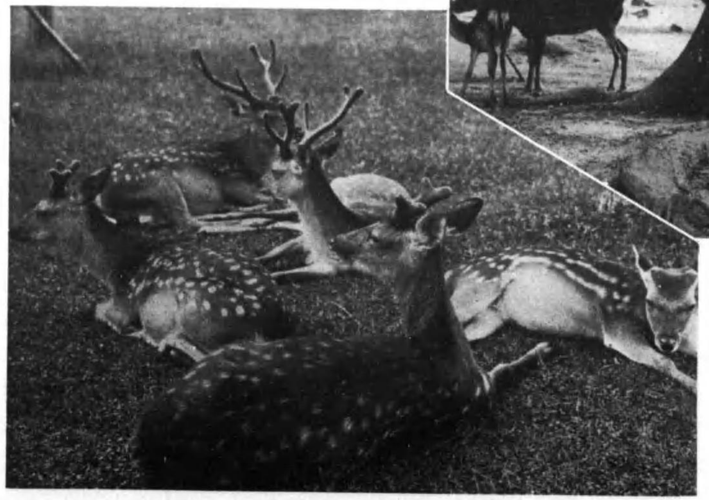
オットセイ　腽鰌獸

オットセイは南北兩半球に產する海獸で鰭脚類に屬してゐる。北半球のものの方が毛皮も優良でその數も遙かに多い。北半球の蕃殖地に於ける上陸數は、我樺太の海豹島約三萬頭、米領アラスカのプリビロフ群島約九十萬頭、露領カムチヤツカのコンマンドルスキー群島約二萬頭である。雄は體長約二・五米に及び性質が暴らいが、雌は體長も約一・五米位でおとなしい。蕃殖地では一頭の雄が二十頭位の牝を從へるので、雄は四五月頃蕃殖地へ上陸し激しい鬪爭をする。雌は六七月頃上陸して一仔を產み、間もなく更に受胎する。九月になると仔も獨立するので兩の海へ旅立つ。翌春前年の蕃殖地へ歸つてくる。

トナカイ　馴鹿

トナカイは樺太・シベリア等にすむ鹿に近い動物で、雄雌とも大きな枝のある角を持つてゐる。土人は家畜として飼ひ、冬橇をひかせるのに使ふ。荷物を運ぶのにも旅をするのにも橇によるので、これをひくのはトナカイか犬かの仕事になつてゐる。野生のものは澤山群をしてゐて、夏は木の葉を食べ、冬は雪を掘つて苔を食べてゐる。





しか　日本鹿

鹿は四五月頃毛が脱けかはり初夏の頃には夏毛になつてつやのある栗色に白斑をあらはし美しくなる。その頃から雄には赤黒い皮膚を帶びた袋角を生じるが、袋角は秋までには立派に伸びて外皮が剝がれて普通の鹿角になる。角は二年目に始めて單角を現はし、三年目で枝を生じ五年以後三枝となる。毎年冬の間に角が落ちるが、其の頃には夏毛が脱けて白斑のない黒褐色の冬毛になる。

キノシシ　野猪

毛は黒色で黒褐色の剛毛を混生し、老年のものは脊に白毛を生じてゐる。雄は雌より大きく犬齒が牙になつてゐる。晝間は山林中に潜み夜間出歩いて食餌を求める。カシ類の實・甘藷・豆等を好み又野鼠やサハガニ等の小動物をたべる。鼻の先で地面を掘るので畑に出ると一夜の中に大害をする。四五月頃四―六頭の仔を產む。幼仔は體に白い縱線がある。

寫眞は歐洲產のものである。

氷雪上の足跡

←ギサウ

←ネツキ

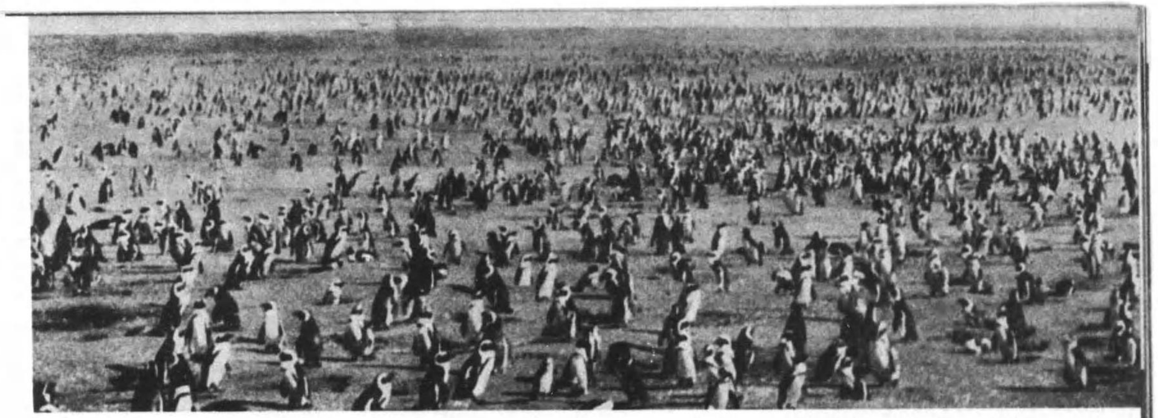
←ソオハカ

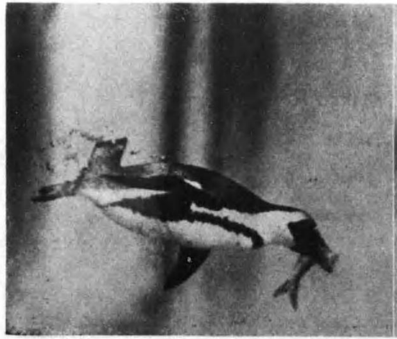
カハオソ 獺

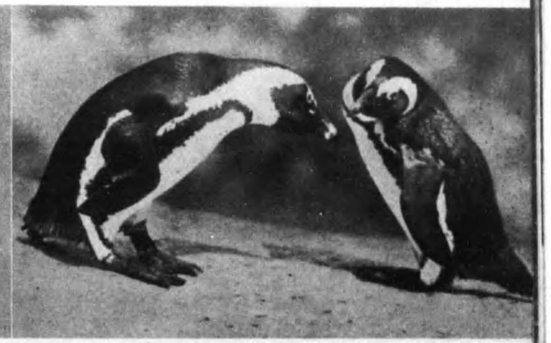
形狀はイタチに似てゐて、體はずつと大きく七〇糎位あり、それに五〇糎位の長い尾がある毛皮は優良で冬毛は上面は黒褐色、下毛は淡鼠色であるが、夏毛は一體に色がずッと淡くなる水邊にすみ、蛙・蟹・水禽・卵などを捕食する。肢にはミヅカキがあり、水泳・潜水が巧である。

キツネ 狐

狐は犬に似てゐて、頭と胴體との長さは七〇糎位、それに三〇糎位の太い尾がある。夜間活動し、農家の家禽を襲ふこともあるが、常食としては兎・野鼠・もぐら等の害獸を捕へるので有益動物とされてゐる。しかも毛皮は美しく温かいので賞用される。近來濫獲されたのと山野の開墾で棲息場所を失つたのとで數を減じた。赤狐・十字狐・銀狐・黑狐などの變種がある。

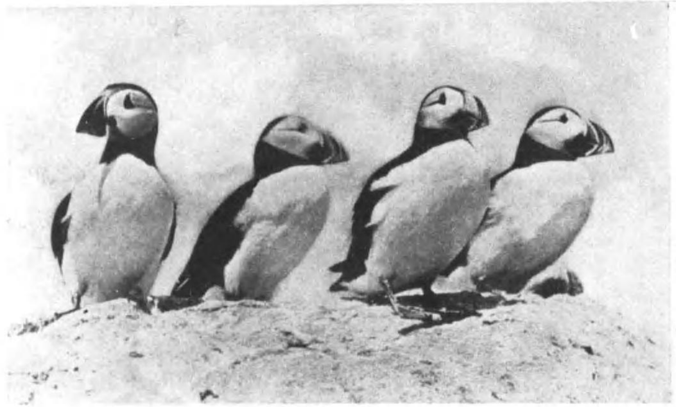


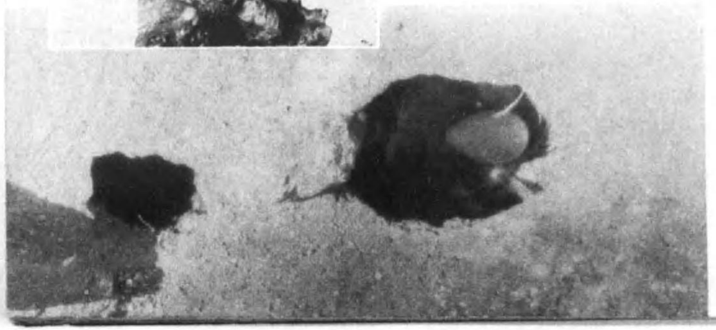




ペングキン

ペングキンは南極洋方面の鳥で十數種ある。帝王ペングキンは最も大きく全長一米位あるが寫眞のものはもつと小形である。水に潜ると翼を櫂のやうにして泳ぐ。常に多數の群をなしてゐる。上圖は繁殖期で穴の中に卵を生み兩脚にのせて温めてゐる。

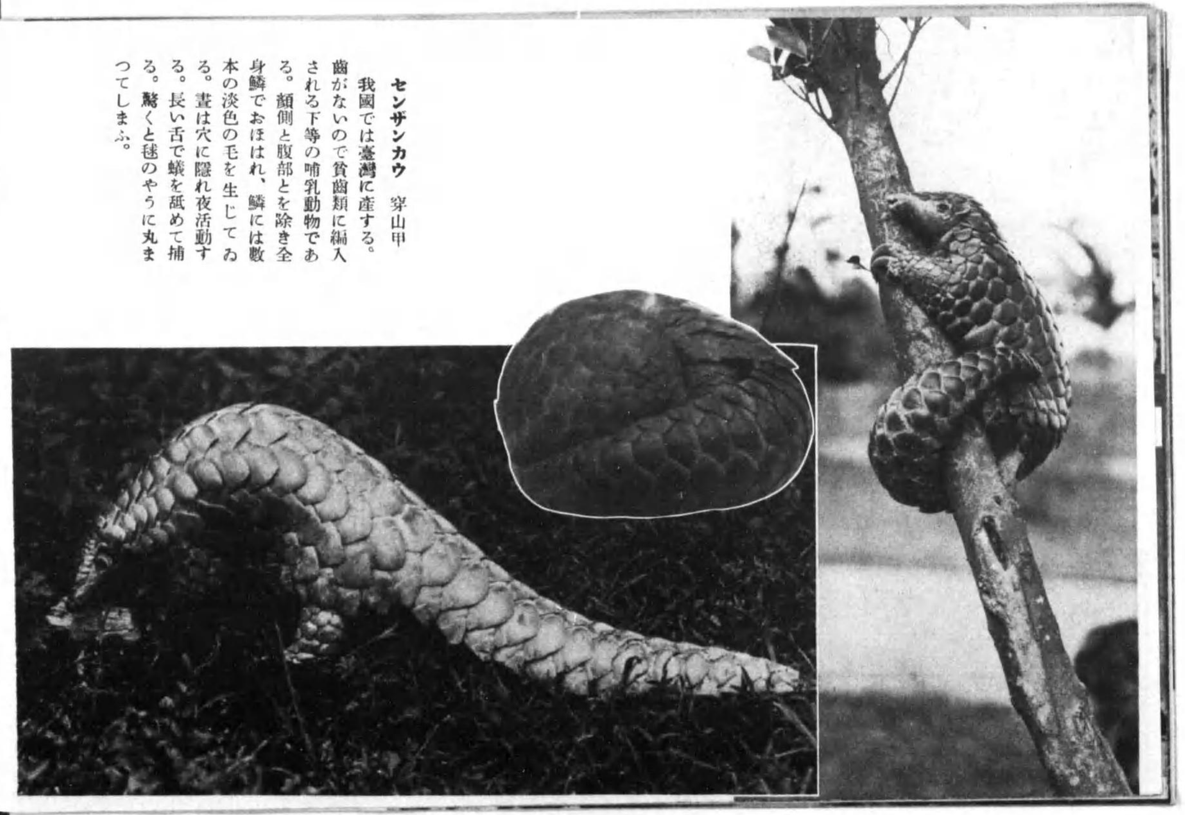




ツノメドリ　角目鳥
エトピリカ

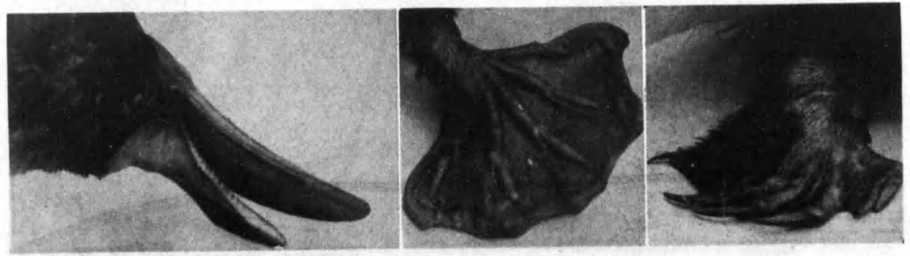
右上はツノメドリ。左は夏羽のエトピリカ。下はエトピリカが產卵のために地面に穴を穿つて設けた巢。これ等の鳥は北極洋の鳥で、我國では北海道以北の海邊・島嶼に群集して棲み、千島・樺太で蕃殖する。冬は稀に本州へもくる。嘴が左右に扁平で色彩が美しい。體姿は直立に近い。

ツノメドリは夏の蕃殖期になると眼のわきに角質のものを生じるので、この名がある。嘴の皮が毎年脫皮することは珍らしい特徴として認められてゐる。



センザンカウ　穿山甲

我國では臺灣に產する。齒がないので貧齒類に編入される下等の哺乳動物である。顏側と腹部とを除き全身鱗でおほはれ、鱗には數本の淡色の毛を生じてゐる。晝は穴に隱れ夜活動する。長い舌で蟻を舐めて捕る。驚くと毬のやうに丸まつてしまふ。

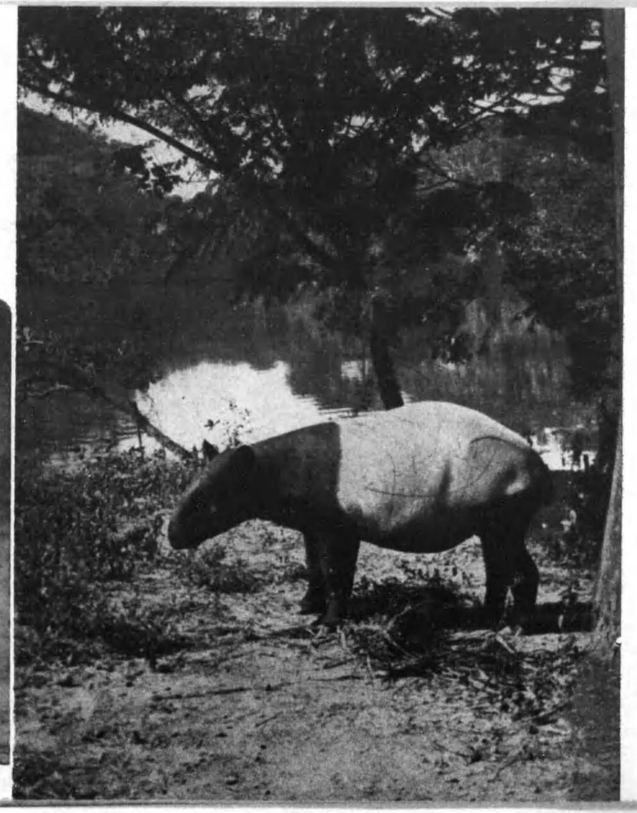


カモノハシ　鴨嘴獸

カモノハシは鴨の嘴のやうな口をしてゐるのでこの名がある。濠洲とタスマニアの特產で、水邊に穴を掘り巢を造つてゐる。柔い黑褐色の毛におほはれた小獸で、短い前肢にはミヅカキがあり、水泳が巧みである。雌が卵を產むのを見ると鳥のやうだが、孵化した幼兒を母乳で育てる點を見ると正しく哺乳動物である。鳥と獸との中間に位する不思議な獸であるが、次第にその數を減じてゐる。

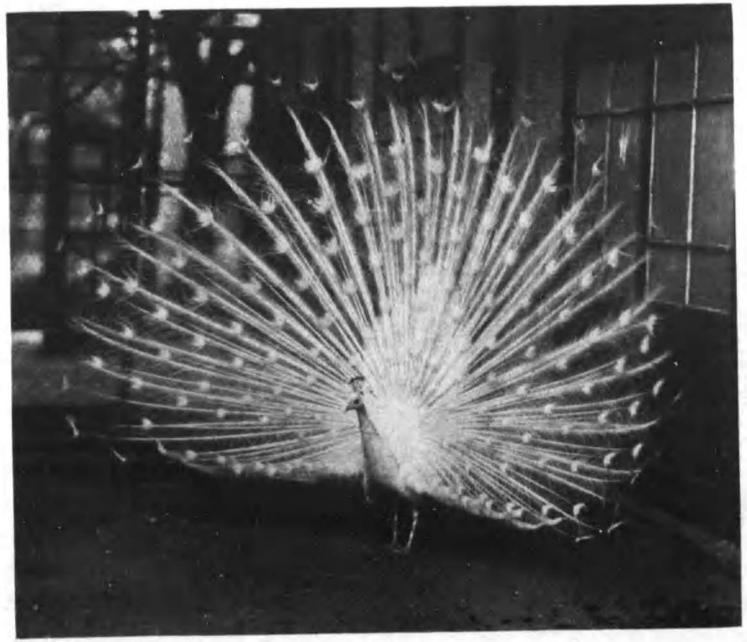
ラクダ　駱駝

駱駝は沙漠の船といはれ
ど沙漠やサハラ沙漠を旅す
隊商の唯一の乗物になつて
る。蒙古地方にゐるのは双
駝で脊のコブが二つあるが、
アラビア地方のものはコブ
一つで單峯駝である。この
ブは榮養分を貯へておくと
ろで飢えるとコブの中の養
を消費して生きてゐる。老
になるとコブも衰弱してし
ふ。又駱駝は第一胃に無數
水囊があつて水を貯へてゐ
のでよく渴に堪へる。蒙古に
ゐる双峯駝はよく嚴寒に堪
どんな吹雪の中でも元氣に
動する。蒙古駱駝の毛は軟
て温いので上等な毛織物原
として海外へ輸出される。



バク　獏

豚のやうな象のやうな珍ら
しい外形をした獸は、獏であ
るが、動物學上からは犀に近
い動物である。自由に屈伸す
る長い鼻があり、前肢は四蹄、
後肢は三蹄を具へてゐる。
南支那・後印度・スマトラに
産するものは體が黑色で胴に
大きな灰白色の斑がある。南
米の熱帶地方にゐるものは全
身淡色である。仔獸には白い
縞と斑點とがある。

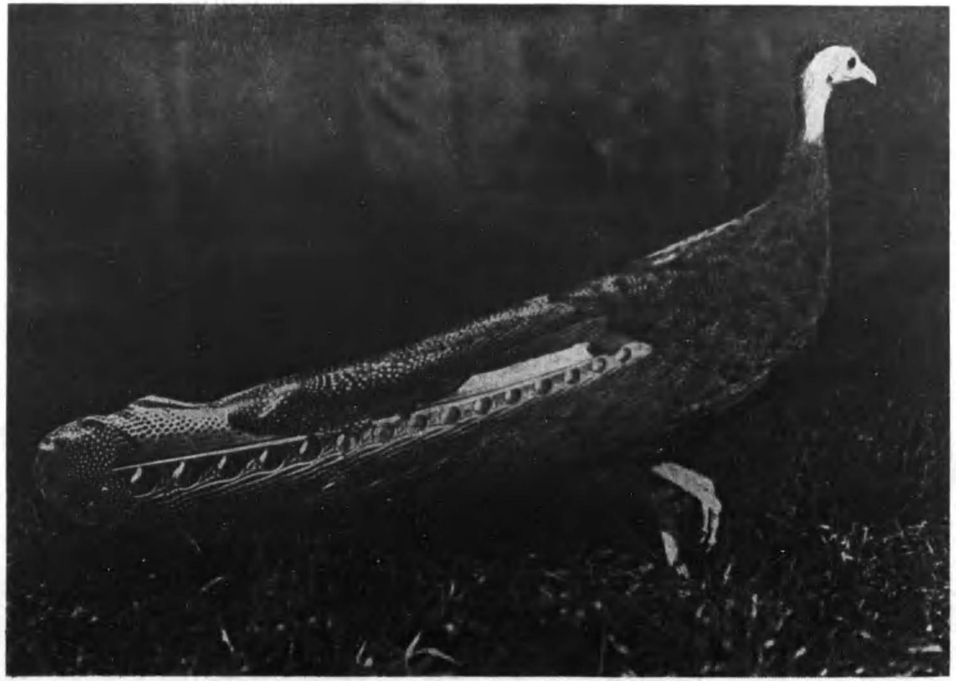


クチヤク 孔雀

マクジヤクとインドクヂヤクとの二種があり、昔から富者の庭園の飾りに飼はれてゐる。

マクジクは冠羽が細長く立つてゐて體は綠色に光つてゐる。ジヤバ邊に產する。

インドクヂヤクは冠が扇狀に開き、體は前者より少し小さく藍色に光り、翼に白い部分がある。印度・セイロンに棲む。寫眞の如き白色の變種がある。



アルグス フェザント 青鷺

セイランは孔雀に似てゐて、雄は翼を擴げると蛇目形の美しい斑紋のある羽が並び實に壯麗で、大きな風切羽と一米餘の長い二本の尾羽が特別な容姿を見せる。生鳥が我國に來たのは明治時代であるが、その羽は古くから知られ、飾矢羽や茶道の羽箒として珍重された。ジヤバ・スマトラ・ボルネオの樹林に棲んでゐて繁殖期には直徑三・五米位の圓形の淸掃した舞踊場を作るのでその所在を發見される。南洋の樹林は樹幹何れも三十米以上もあり、樹頂は繁茂してゐるが下枝がないので、こんな大きな鳥が自由に翔け廻はることが出來る。

ナベヅルとマナヅル

鍋鶴・眞鶴

鹿兒島縣出水郡荒崎の禁獵地へは、毎年冬になると朝鮮の北方から三四百羽の鶴が渡來する。ナベヅルとマナヅルとが主であるが、それもナベヅルの方が多數である。

ナベヅルは灰色で頸が白く小形である。

マナヅルは大きくて頸が白く、灰色の縦の條がはいつてゐる。

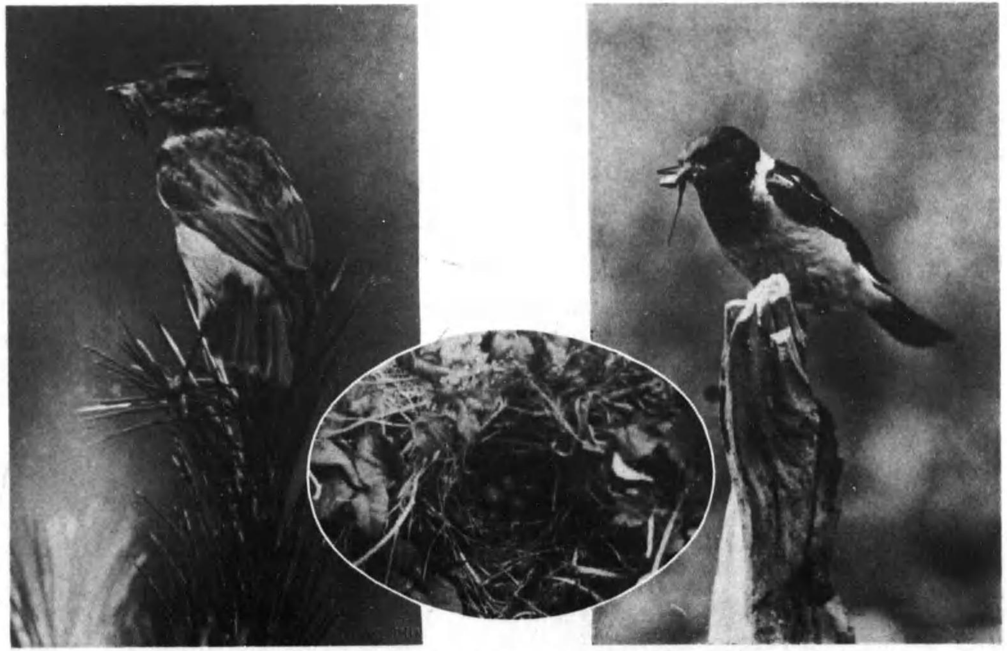
天然紀念物として保護されてから次第にその數を増し、鶴・ヘラサギ・ナベカフなど、我國に珍らしい鳥が一緒に渡來するやうになつた。

下村兼二撮影

ナベカフ　鍋鶴

ナベカフは脊が紫黑色に美しく光り、數年前より鹿兒島縣荒崎の禁獵區に毎年冬になると雌雄二羽渡來する。

下村兼二撮影



ノビタキ

平野にゐる鳥で、雄は脊が黒く腹が茶、雌は茶。初夏營巣し、美しい薄青地に紫褐色の斑點のある卵を五―七個位産む。雄は蕃殖期の後は黒色を失ひ褐色になり雌と似てくる。それは羽が換はるのではなく、蕃殖期の活動が激しいので、羽先がすりきれて羽毛の縁にある黒い部分を失ふからである。

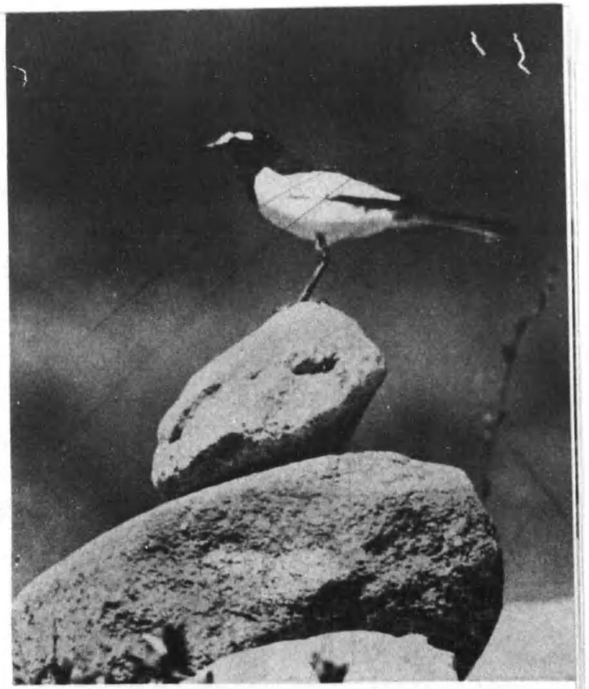
下村榮二寫

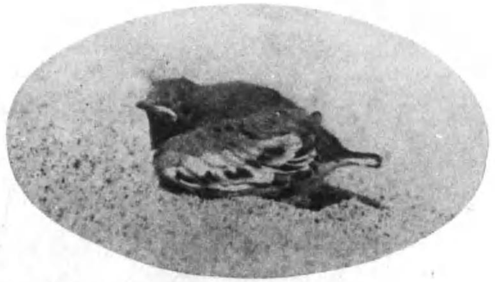
オホルリとジウイチ

ジウイチは鳴聲からきた命名で、ホトトギスの類である。ホトトギス（吐鬧）・カッコウ（郭公）と同樣に他鳥の巣に卵を産み、他鳥に抱卵させ雛を育てさせる。孵化した雛は假親の卵や雛を巣から落してしまふ。假親はそれに頓着なく實子同樣に熱心にそだてる。

寫眞はジウイチの雛がオホルリに養はれてゐるところである。

ジウイチはコルリかオホルリかの巣に産卵する。ホトトギス（左圖）は鶯の巣、カッコウはホホジロ・モズ・ヨシキリの巣に産卵するこれ等の卵は假親になる鳥の卵と略ゞ同色であるが著しく大きい。



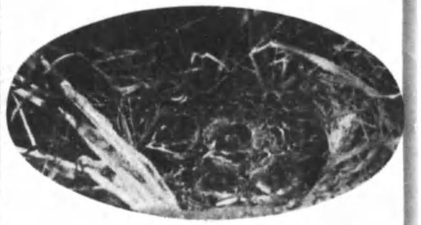


セグロセキレイ　脊黒鶺鴒

千島・樺太にはゐないが日本に廣くゐる小鳥で、セキレイと共にどこでも見られる。蕃殖期になると寫眞のやうに黒色が著しくなる。

セキレイの中にも白セキレイ・爪長セキレイ・岩見セキレイなどは稀である。普通セキレイは尾を上下に動かすのに、岩見セキレイは尾を左右に動かすのでヨコフリセキレイの異名がある。

下村兼二撮影



ヒバリ　雲雀

ヒバリは北は樺太から南は琉球までゐるし、野原や耕地にゐるのでどこでも見られる。翼と尾とがかなり長く、後趾の爪が著しく長い。飛ぶことも速いが、地上を走ることもまた巧みである。小川の水も温む小春日和に麥が一日一日と伸びてゆく頃、霞こめた遙か上空で啼き初める。中空に羽を小刻みに動かしながら長い囀りを續ける。これは他の鳥のしない珍らしいことだ。四五月頃地上の凹所や草間を利用して營巣し、三―五個を產卵する。抱卵十數日で孵化し八日か九日で巣立をする。食餌に夏は主に昆蟲で、その僅少な時期には草の種子や穀粒なども食べる。有益鳥として非狩獵鳥になつてゐるから捕獲することはできない。

下村兼二撮影

↑

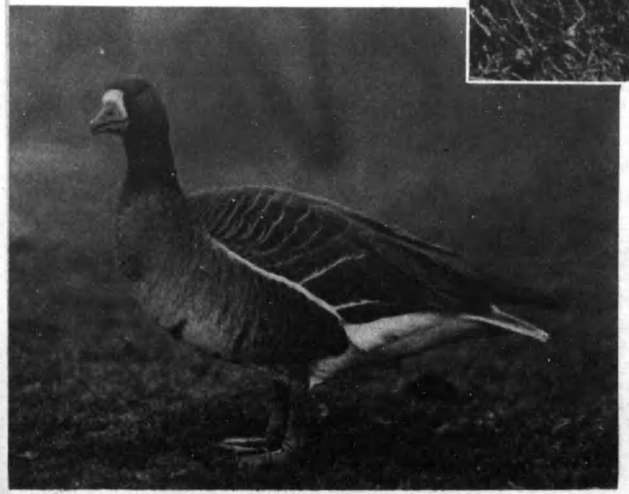
グンカンドリ　軍艦鳥

體長七〇糎位もある褐色をした大きな海鳥で、小笠原・琉球の沿海にすんでゐる。嘴が長く翼は細長く、飛ぶ力が強い。雌はのどに白羽を生じてゐるが雄はのどに羽がなく、蕃殖期になると眞紅になり、空氣がはいつてふくれる。日本では蕃殖しないのでこの寫眞のやうな珍らしい姿は見られない。

カンムリカイツムリ　↓

カイツムリは一名モグリとも云ひ、どこの池にも澤山ゐる小さい水禽で、他の鳥には見られない浮巣を作る。歌などで鳰の浮巣といふのはそれである。

カンムリカイツムリは鴨位の大さがある海鳥で、本州・九州・對島・朝鮮及び臺灣の海に冬見られる。夏は日本以北に渡つて蕃殖する。蕃殖期になると雄には美しい色の冠羽ができる。寫眞は浮巣に雛が孵化して雄が魚をくはへてきたところである。



ガンとカモ　雁・鴨

我國へ渡來するガンには七種類ほどある。そのうち眞雁・菱喰・逆頡雁（サカツラガン）の三種類が多いが、それも最近では非常に減つた。下の寫眞はマガン。

カモは三十種ほどあるがマガモとコガモが一番多い。上の寫眞はコガモ。

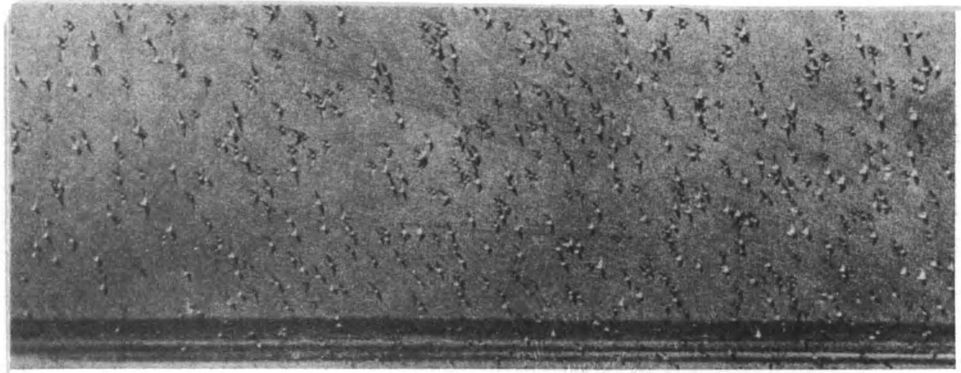
雁や鴨の類は夏期はシベリア地方など日本より北方で過ごし、そこで繁殖をして九月頃から澄み渡つた秋空を飛んで我國に渡來する。海や川や湖や池などに下りて冬を暮す。晝間は靜かな水上に休み、主に夕刻から食物を漁りに出かけ夜明に元の場所へ歸つてくる。四月頃になると北へ飛び去つてしまふ。然しカルガモ（輕鴨）やオシドリは日本に止まつて繁殖をする。雁や鴨の一族で一番大きいのはハクチウ（鵠）で、一番美しいのはオシドリ（鴛鴦）である。

タシギ　田鳴

タシギの類は八種類ほどあるが、田鳴が一番多く肉が美味なので、狩獵家の好き獲物となつてゐる。眼が法外に後方についてゐることが其特徴で、濕地に棲み飛ぶ力が強くて速い。

九月頃シベリア地方から渡來し、十月初まで段々その數を増し、稲穂が實つて頭を垂れ初めた田圃に風情を添へるが、滞在期間は數週間位でまた更に南方へ飛去つてしまふ。然し田鳴が一番澤山着いた頃に獵期が始つて濫獲される。東京附近の田野には最近著しくその數を減じた

秋渡來したものは、大部分更に南方へ渡るが一部は本邦に留り越冬する。夏になると總て北の故郷へ飛び戻りそこで繁殖する。



ハマシギとトウネン　濱鳴・當年

ハマシギは磯鳴又は千鳥とも呼ばれる。九州有明灣の、筑後川が注いで干潟をなしてゐる所へ春秋二季大群をなして渡來する。こゝは禁獵地になつてゐるので、渡來する數は非常に多く、干潟でしやこ・蟲・貝類を食つてゐる。夏の蕃殖期は日本より北で、越冬地は日本より南である。つまりその往復に春秋有明灣へ立寄るわけである。寫眞は秋の渡りである。

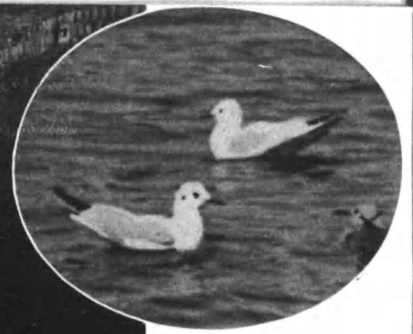
トウネンは濱鳴より小さい。下圖は同所に於けるタイセン・オバシギ・オホソリハシ秋の渡り。

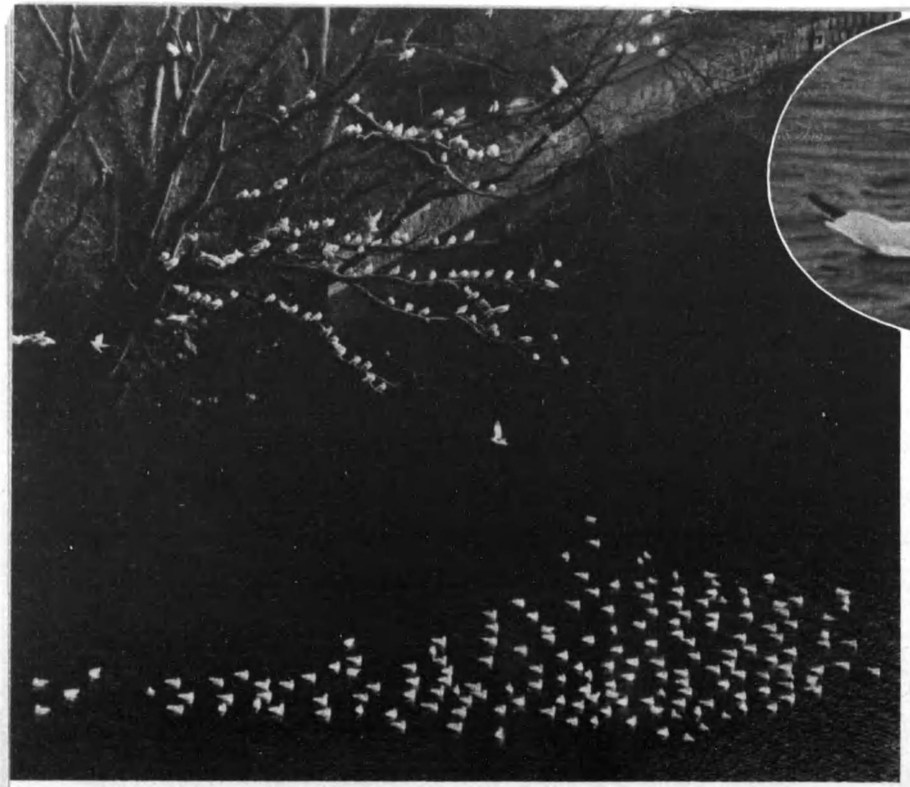
下村兼二撮影

ウミネコ　海猫

海鳥ではカモメとウミネコが一番普通に見られる。兩方とも同じやうな姿をしてゐるが、カモメは尾が白くウミネコは尾に黒い横條があるので一見して區別される。日本で蕃殖するのは海猫が多く、鳥眞は青森縣の蕪島で其蕃殖地として天然紀念物に指定されてゐる。蕃殖期が終ると遠く四散してしまふ。漁夫は海猫の群で魚群を探知するので大事にしてゐる。

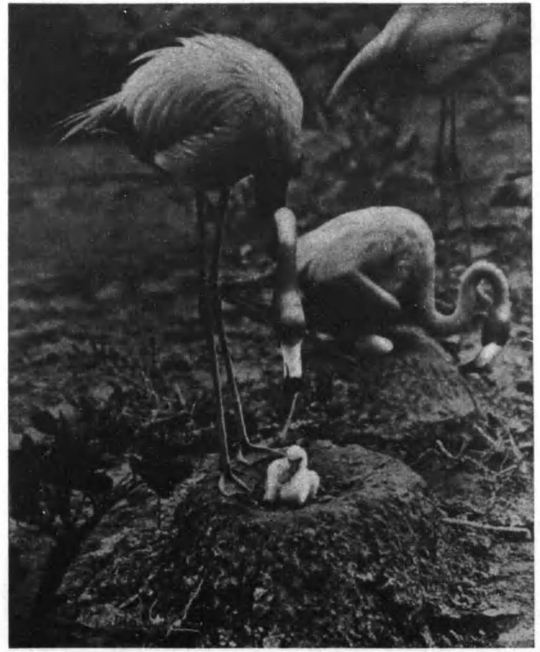
下村繁二撮影





ユリカモメ

カモメの一種で小さく、嘴と脚が紅く翼の先が黒い優美な姿をしてゐる。冬になると東京附近の川や濠へ來て遊んでゐる。隅田川へは昔から來るので、業平の都鳥の歌で知られてゐる。ユリカモメは日本へは冬だけくるので、夏になると北方へ渡り頭部が黒くなり一層美しくなるが、日本ではその姿は見られない。鳥眞は東京の半藏門下のお濠で撮影したものであるが、滞在期は一週間から十日間である。



フラミンゴー　紅鶴

桃色の頸と脚とが非常に長い。鶴に似てゐるが鶴とは異ふ特別の種類であるアフリカが主産地であるが、アジアの南・歐洲の南にもゐる。常に驚くほど多數群生して湖などに下りてゐる。その一時に飛び立ち舞ひ下るところは實に壯觀である。嘴が太く鉤曲し、上の嘴が薄く下嘴が厚い。從て動作も反對で、長い首を卷込むやうにして上嘴を下にして餌をあさる。

サギ　鷺

日本にゐる鷺の種類は二十種にも及ぶが、雪白な羽色をした白鷺には小鷺・中鷺・大鷺の三種を數へる。內地にも昔はかなり多數の白鷺がゐて繁殖期になると各處の鷺山に集まるのが見られたが、今日では著しく減少して鷺山は見られない。繁殖期になると腰に美しい簑毛が生へるので、これを裝飾用として外國に賣出す爲めに濫獲したので急に減少した。

我國では白鷺が一本の長い脚で水際に佇んでゐる姿をよく見るが、綠の松に配しても雪の柳に配しても好き畫題である。併し臺灣に行くとコサギやヤマサギが水牛の脊に乘つてゐるし東部アフリカへ行くと象の脊に乘つてゐる。これは水牛や象に寄生するダニを啄んでゐるのである。

寫眞は歐洲產白鷺の繁殖

ヨタカ　怪鳥

夕方獨特な聲をして啼くので注意される。フクロウのやうに軟い羽をしてゐるので、飛んでも音がしない。形は燕に似てゐて鳩位の大さがあり、頭が平たく口が大きく裂けてゐて、口を開くと口元の毛が逆立つて袋のやうになる。蚊群を喰ふのでカスヒドリとも云ふまた蚊母鳥とも書く。富士山麓に多く、地上に枯葉を敷いて二個産卵する。

下村象二撮影

フクロウとミヽヅク

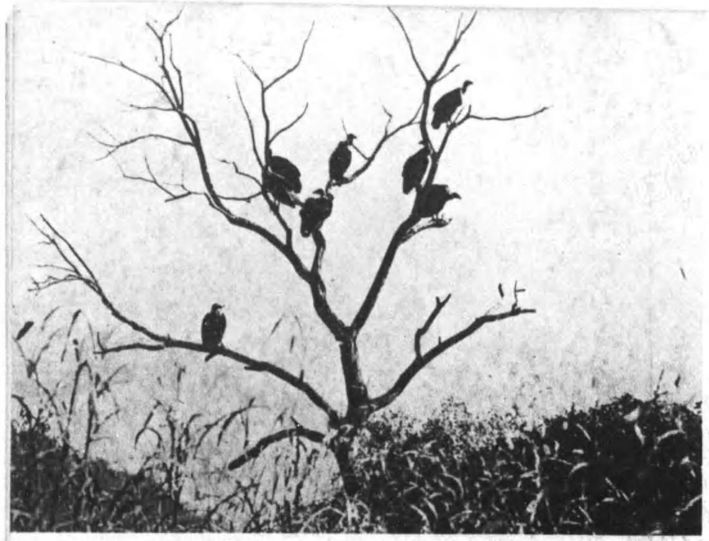
梟と鴞鵂

フクロウもミヽヅクも、晝は薄暗い木の間などにじつと休んでゐて、夜活動する鳥として知られてゐる。兩者の區別は、耳の様な羽のある無しによるものとされてゐる。大體の區別はそれでよいが、耳羽のあるフクロウがあり、耳羽のないアオバヅクの如き例外がある。又この耳羽といふのは、頭上に羽のふさが立つてゐるので、ほんとの耳ではない。兩者とも眼と耳の大きいのが特徴で、耳は眼のふちにある羽毛の後ろに隠れて、大きな穴があいてゐる。翼は軟くて、飛んでも羽音を立てない。一夜に野鼠を一―三匹食ふ。鼠が常食であるが小鳥や昆蟲も捕食する。

ワシ　鷲

ワシは日本には七種ほどゐるが、他の鳥類と同じく、今日ではその數を減じ、深山へ行つても容易にその姿が見えない。鷲は態度も鷹揚、その性質も勇猛なので、鳥の王といはれてゐる。

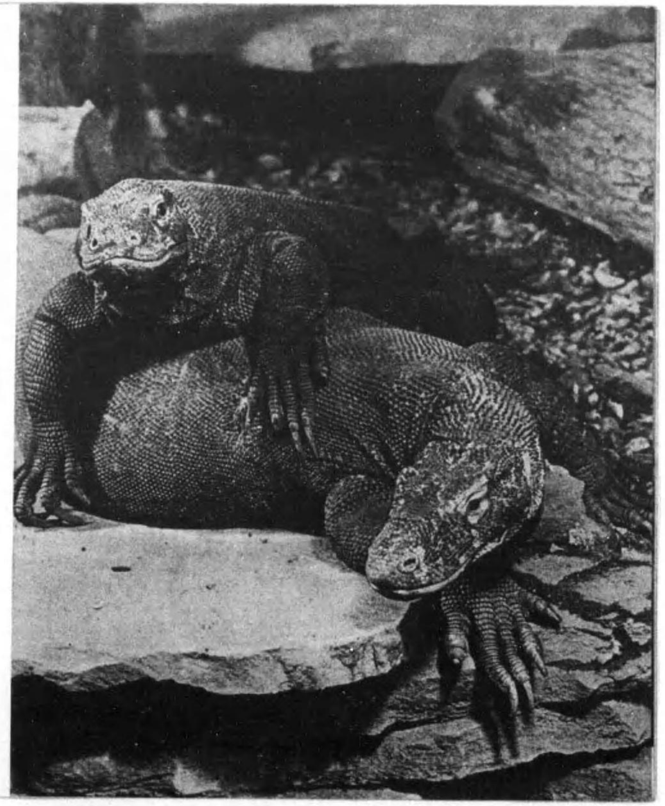
この寫眞は英國で寫したゴールデン　イーグルで、イヌワシのやうな大きな鷲である。深山に巣を營み雛を育てゝゐる、稀らしい撮影である。



禿　鷲

禿鷲は朝鮮にはゐるが我内地には稀に迷鳥として來ることがあるだけで普通には棲んでゐない。

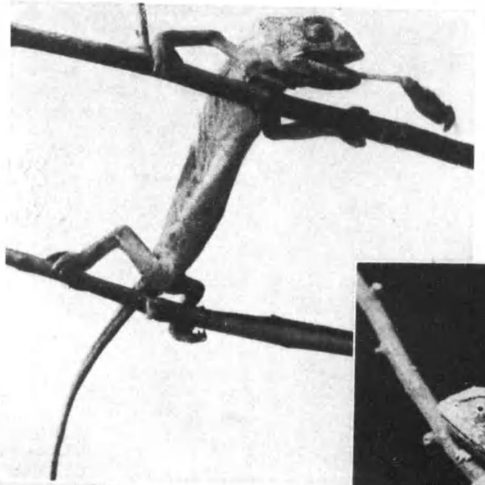
この寫眞の禿鷲はアフリカ產のもので日本の鷲より大きく、頭部はその名の如く毛がなく裸出してゐる。ライオン等が斃した野獸に群がつて屍肉を貪食する。又常に群生するから大きな野獸を目がけて啄き殺してしまふことがある。實に猛惡な鳥で、高原の大木の枝に禿鷲が群れて羽を休めてゐる光景は殊に荒涼たる感じがする。

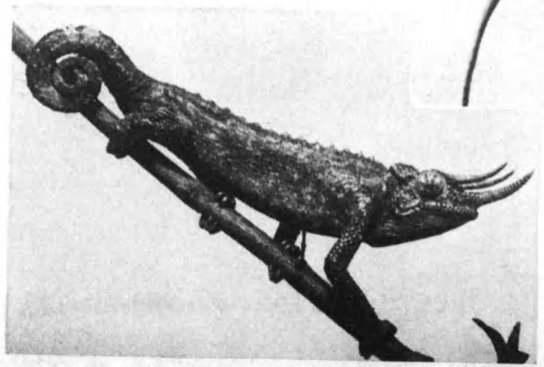


ヒゲトカゲと大トカゲ

あごの下のふくろをふくらませて鱗をさかだて、敵をおどかしてゐるヒゲトカゲのものすごい顔！これは濠洲南部の溫帶地方にすんでゐるもので、力强い尾を振りまはし近寄る敵を倒してしまふ。

二疋ゐる大トカゲはジャバの南にあるコモド島とフローレンス島にゐるもので、大きいのは四米に達するものもある。舊世界に活動した恐龍に似てゐるので、コモド龍と呼ばれてゐる。夜は石の下に穴を掘つて眠り、晝は山野に活動するが速力は中々早い。

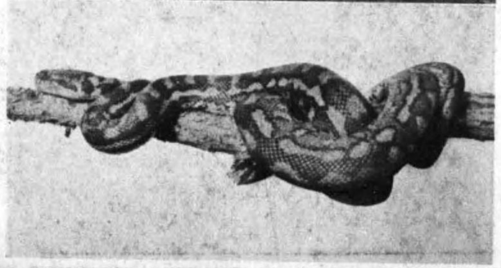




カメリオン

カメリオンは體長三十糎位の小さい爬虫類で、體は左右に扁たく、一面にいぼのある皮でおほはれてゐる。普通灰綠色で不規則な斑點が現はれてゐるが、環境によつて體色を變へるので有名である。眼は左右別々に動き、舌は棍棒狀で非常に長く伸び、粘質液を出して昆蟲を捕食する。五十餘種あり多くアフリカに分布してゐるが、小アジヤ・南ヨーロッパの密林にも棲んでゐる。角のあるのは珍らしい種類である。

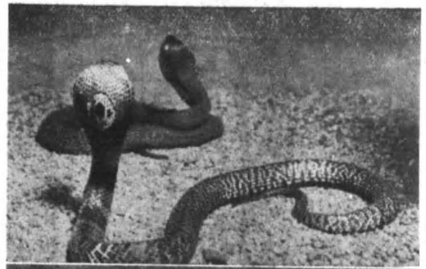
印度產パイソン

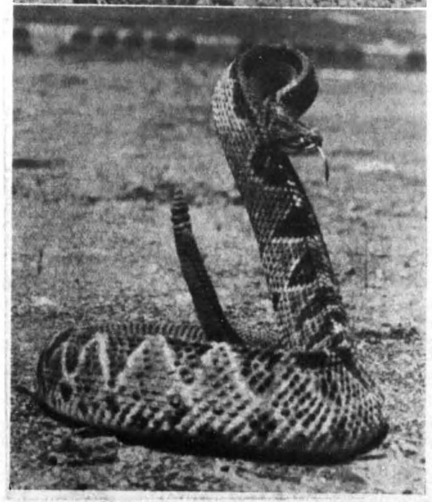


濠洲產ダイヤモンドパイソン

パイソン　錦蛇

パイソンは有名な大形の蛇で長さ一〇米に達するものがある。叢林を走り樹上に登り、活動が敏速で鬪爭性が激しく虎などを斃すことがある。



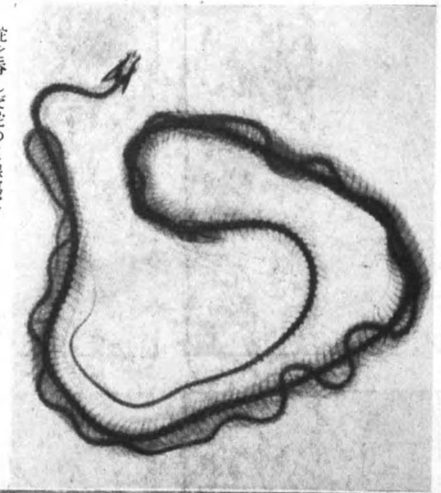


コブラ　左上

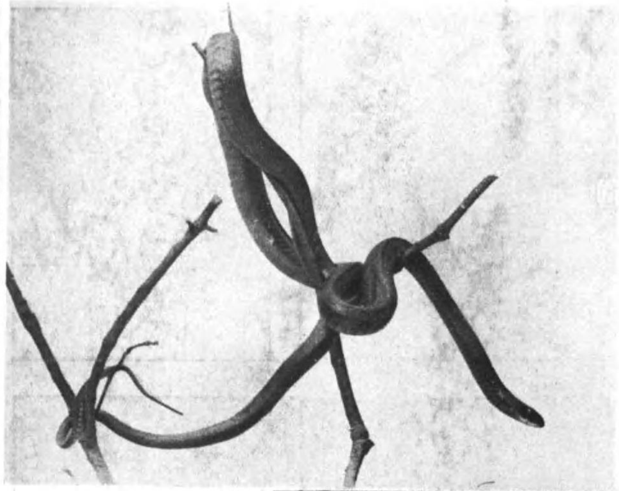
印度・マレイ・臺灣などに產する毒蛇で、怒ると頸を平にして立上り、シュッと聲を出す。土人は笛を吹いて蛇を立上らせ、見せ物にしてゐる。

ガラガラヘビ　左下

米國產の毒蛇で尾端にある長い松毬に似た部分を振動して奇音を發するのでこの名がある。種類が十種ほどあり、大きいのは二米ほどある。

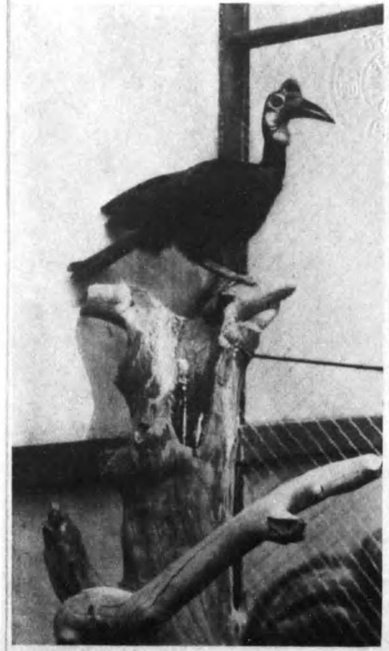


蛇を呑んだ蛇のX線寫眞



ブラック　スネーク　上圖

米國の牧場をかこむ灌木林の中にすんでゐて、小鳥の巢に忍びより卵や雛を呑んだり又小さい蛇を丸呑にすることもある。人を見ると急いで逃げてしまふ。石の下などに一〇—二〇個の卵を生む。



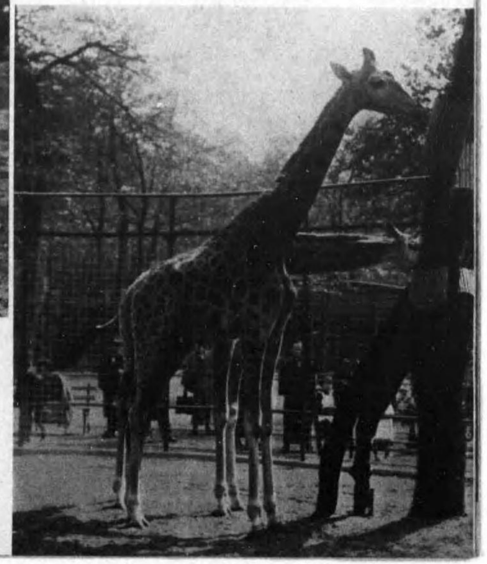
左　**アビシニアの犀鳥**　風切羽を除いて全身黒色、強大な嘴を持つてゐる。原産地では樹上に止ることより地上を歩行することが多く、小動物や鳥卵などを常食してゐる。

中　**コンドル**　南米の山岳地數千米の高地に棲息してゐる禿鷲の一種で、野獸や家畜の斃死したものを啄み、その内臓を好食する。人には危害を加へない。

右　**マレイの犀鳥**　山地の森林に棲息し、上嘴基部に巨大なる角狀隆起を持つてゐるのが特徴である。

ジラフ

ジラフは獣の中で一番せいが高く、アフリカだけに産する。おとなしくて人に馴れ易い。動物園では燕麥・オートミール・牛乳・人蔘・馬鈴薯・玉葱などを與へ、岩鹽・アカシヤの枝・枯死した樹皮なども與へてゐる。寫眞は年齢四歳で上野動物園飼育の雌雄である。



オカピ

アフリカのベルギー領コンゴ地方に稀に産する動物で、頭部はジラフに似てゐるが頭は太くて短かい。前額部には後方に向いた一對の短かい角狀突起がある。この寫眞はベルギーのアントワープ動物園に飼育されてゐるものを最近撮影したもので、左が雄で右は雌。

上　タンチヤウ　丹頂

公園や動物園で多く飼育されてゐる美しい鶴である。昔は本邦各地に野生のものを見られたが、現在では北海道と鹿兒島とに各一ヶ所の保護渡來地があるのみで他では見られない。

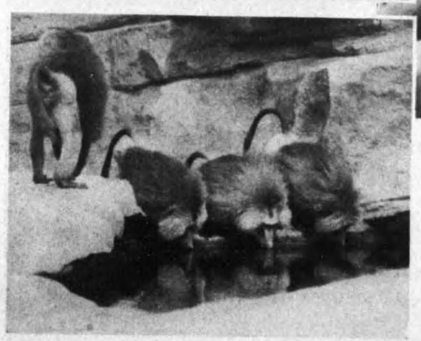
下　フラミンゴー

ヨーロッパやアフリカに產するものは羽色が白いので白フラミンゴーと稱され、アメリカに產するものは羽色が紅いので赤フラミンゴーと言はれてゐる。常に群生してゐる。

上野動物園のものは白フラミンゴーで、穀類、フィッシュミール・乾蝦・食パン等を與へて飼育してゐるが、蕃殖は非常に困難である。

オホハクチウ　スワン

オホハクチウは全身純白で大きな體軀をしてゐる。これはロンドン郊外の公園に飼はれてゐるスワンが雛をつれて池に遊んでゐるところで、雛は羽毛が灰褐色を帶びてゐる。雛はボートにでも乘つてゐるやうに親鳥の脊に乘つて池を周遊してゐることがある。



マントルザル

マントヒヽとも云はれて雄はマントを着たやうに長毛を纏つてゐる。アフリカの岩山に群棲してゐる。性質は荒い。

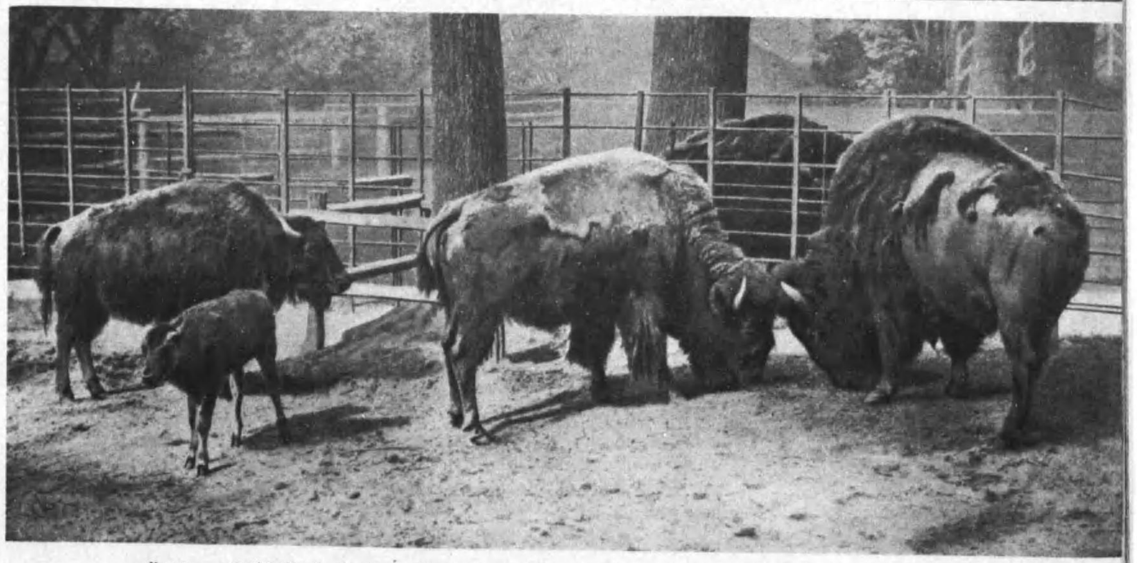
左上　上野動物園のマントルザル（雄）

右左下　ロンドン動物園のマントルザル群

讀賣新聞社撮影

ライオンとマントヒヒのアクビ

ライオンの舌を御覽なさい、この舌で骨から肉をしやぶり取るのです。



アメリカン　バイソン

アメリカ野牛

バイソンは米國ではバッファローといふてゐるが牛の類で水牛とは異ふ。暗褐色の被毛は前半身に於て特に長く、その爲めに後半身は著しく小さく見える。顎髯も長く房々してゐて頤も大きく見える。六十年ほど前迄は數百萬頭が北米の原野に群棲してゐたが、肉が美味で毛・皮・骨・角がそれぞれ有利に用ひられるので、鐵道工事の進捗と共に亂獲され、僅か二十年ばかりの間に全く衰亡し殆ど絶滅に瀕した。カナダ政府はこの有用動物の保護に着目し、廣大な野牛園を設け、放牧し、最初購入した一群は七百十六頭であつたが、今日では一萬二千頭の大群に增殖されてゐる。食餌は草類が主で蘚苔類も食し極めて粗食である。

これはベルリン動物園の寫眞であるが、上野動物園にも飼養されてゐる

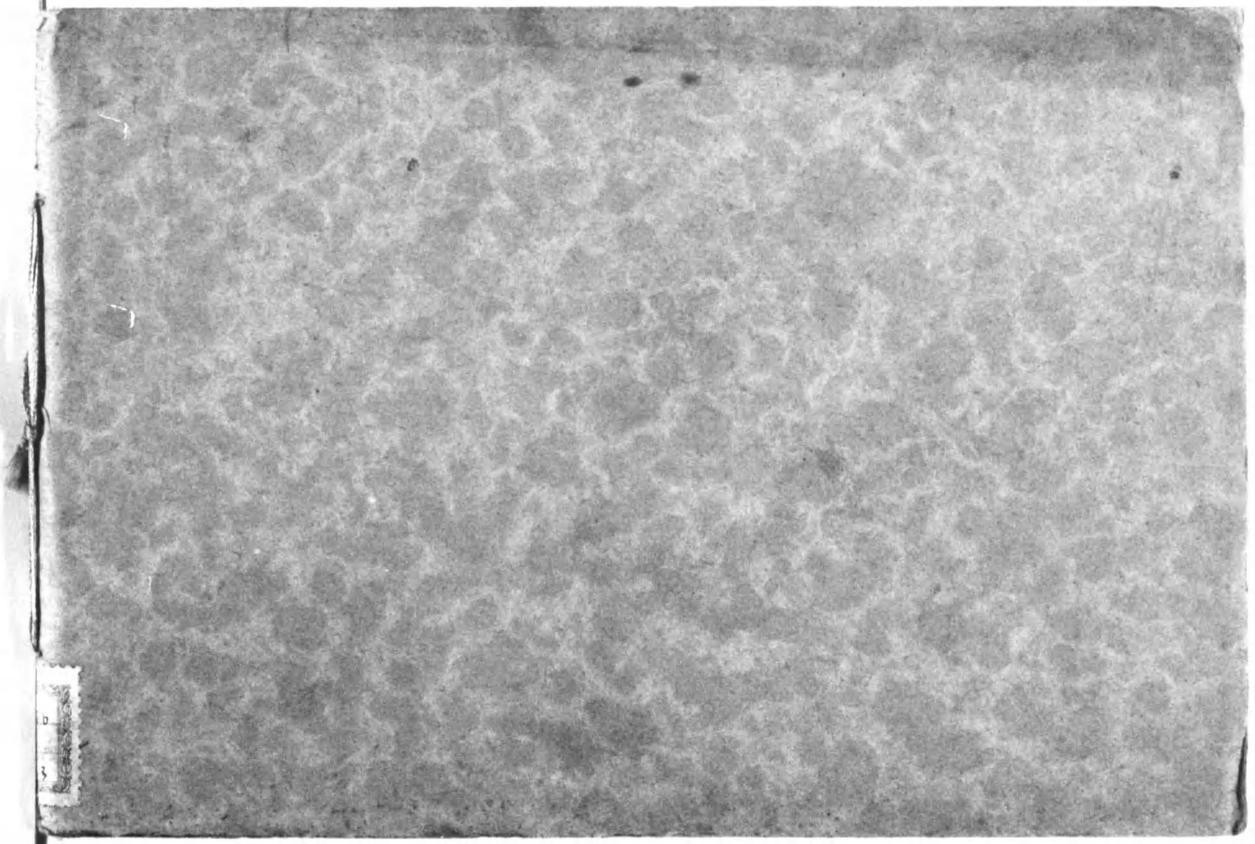
「科學知識」は文化生活の好伴侶品位ある家庭の讀物として定評があります。

「科學知識」は毎號多數の新進專門家に執筆を依頼して自然界・產業・軍事・交通・都市施設・家事など、當面の諸問題に關する科學と技術方面を極めて常識的に紹介してゐます。從つて毎月本誌を愛讀すれば、時代の先驅をなす自然科學と技術の進歩を居ながらにして展望することができます。

「科學知識」は眞面目ですが、何の記事も滋味がある平明さ、親みやすい面白さが溢れてゐます。又用紙と印刷は特に吟味してゐるので、グラフの鮮明なこと、本文の明快なことも本誌の特色です。

東京市麹町區丸ノ内二ノ六
財團法人 科學知識普及會
電話丸ノ内七八〇番
振替口座東京四六六〇二番

動物寫眞帖
定價五十錢 郵稅六錢
昭和九年四月二十日印刷納本
昭和九年四月二十五日發行
印刷兼發行人 高倉松藏
印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秋山印刷所
發行所 東京市麹町區丸ノ内二丁目六番地 財團法人科學知識普及會

不許複製

終